

企業経営者意識調査

概況（令和 5 年 10-12 月）

P 1

調査結果

1	経営状況	P 3
2	雇用状況	P 7
3	在庫、価格水準	P 11
4	設備投資の状況	P 13
5	地域別にみる各産業の動向	P 15
6	道内の景況感	P 23
7	業種・地域別企業経営者の声	P 24
8	業況感の長期推移	P 28

特別調査

1	原油・原材料価格高騰の影響について	P 29
2	省エネルギー対策の状況について	P 31
3	人手不足の状況について	P 32

調査方法

P 35

■ 調査対象企業数は900社、回答者数は547社、回答率は60.8%

(1) 業況感は、前期から5ポイント下降し△6ポイント。来期見通しは△10ポイント。

(2) 売上は、前期から6ポイント下降し△4ポイント。

経常利益は、前期から7ポイント下降し△19ポイント。

(3) 資金繰りは、前期から1ポイント下降し△7ポイント。

(4) 雇用者の不足感は、前期から1ポイント上昇し51ポイント。

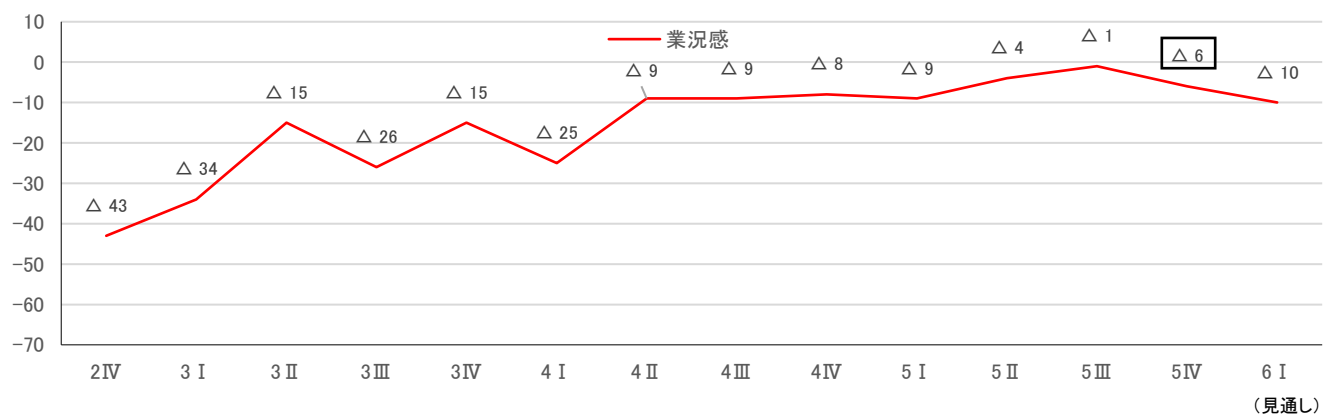
(5) 1人当たりの賃金は、前期から5ポイント上昇し58ポイント。

(6) 原材料価格(製造業)は、前期から6ポイント下降し71ポイント。

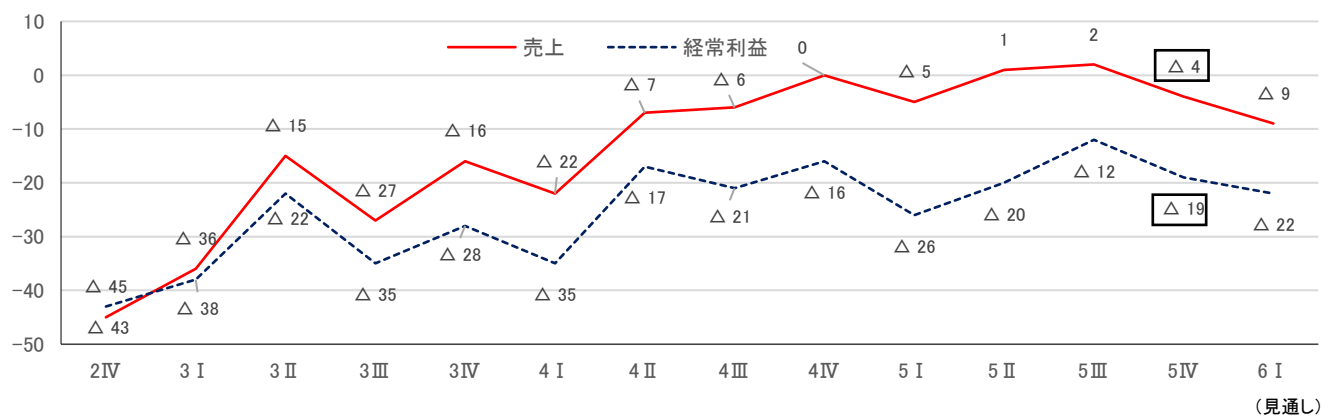
(7) 仕入価格(卸売・小売業)は、前期から1ポイント下降し83ポイント。

(8) 道内の景況感は、前期から13ポイント下降し△8ポイント。

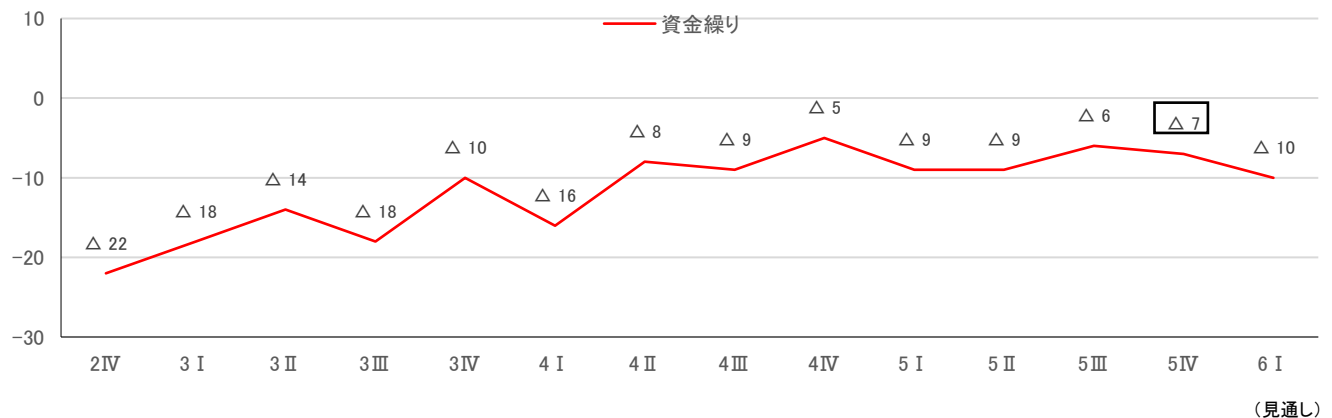
(1) 業況感(「上昇」-「下降」)



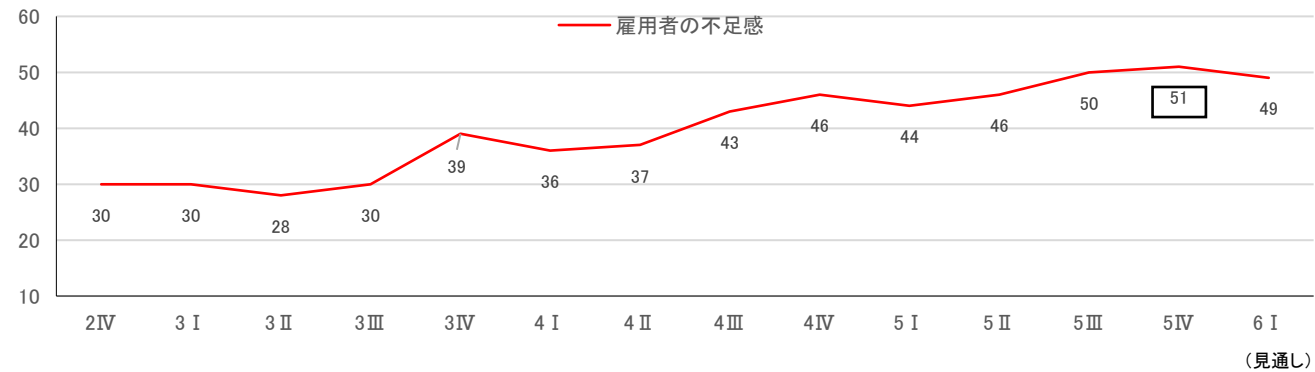
(2) 売上・経常利益(「増加」-「減少」)



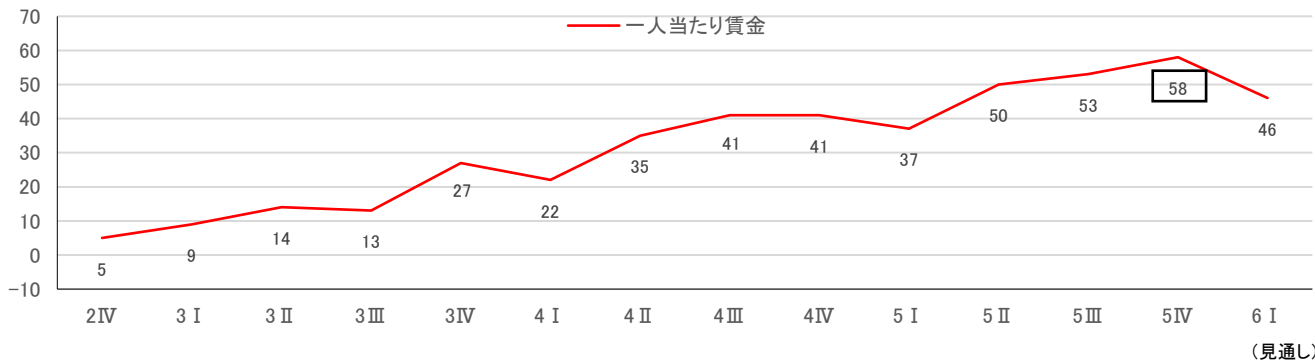
(3) 資金繰り(「改善」-「悪化」)



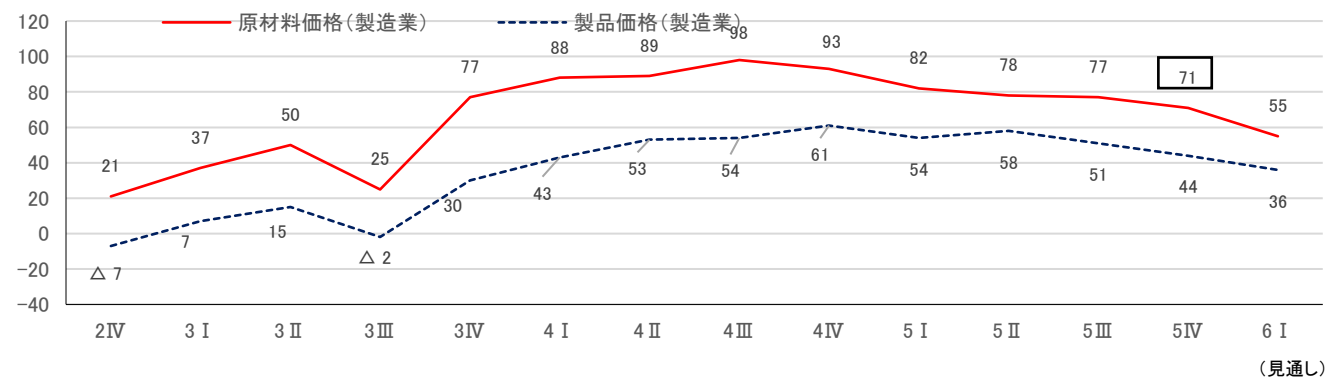
(4) 雇用者の不足感(「不足」-「過剰」)



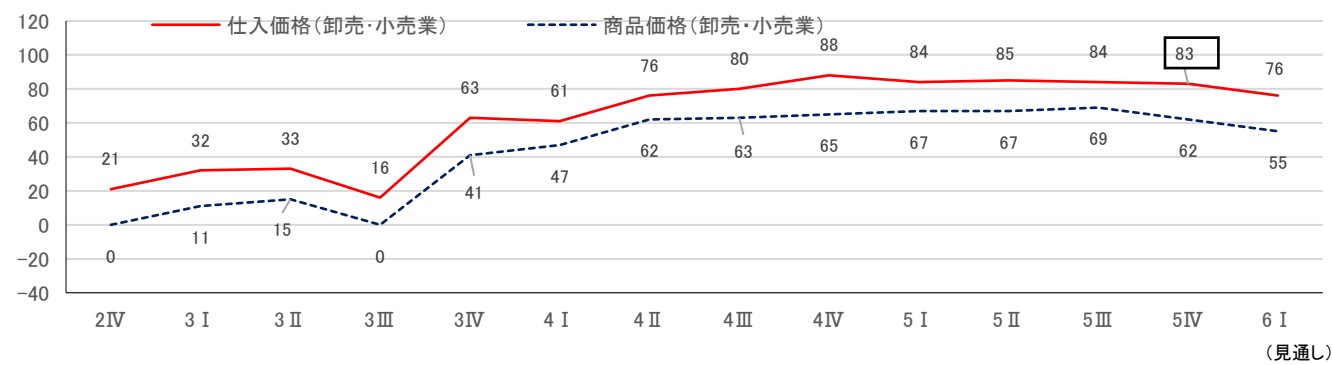
(5) 1人当たりの賃金(「増加」-「減少」)



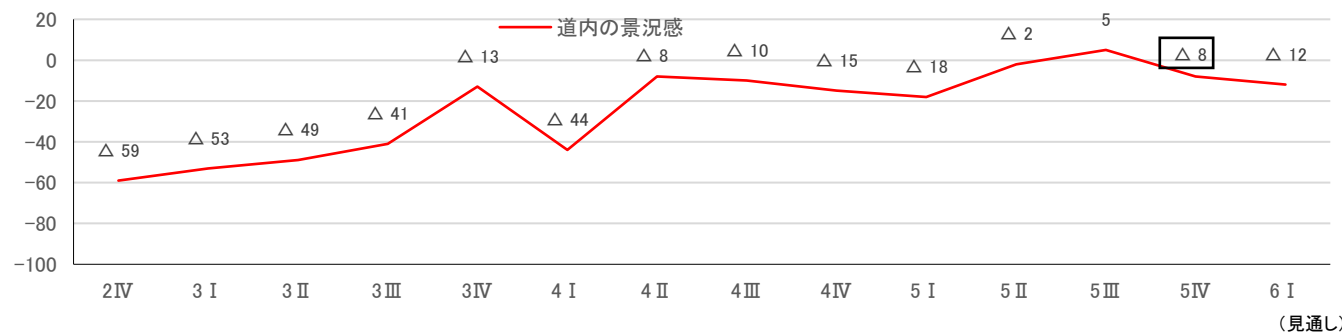
(6) 原材料価格・製品価格[製造業](「上昇」-「下降」)



(7) 仕入価格・商品価格[卸売・小売業](「上昇」-「下降」)



(8) 道内の景況感(「上昇」-「下降」)



2 調査結果

1 経営状況

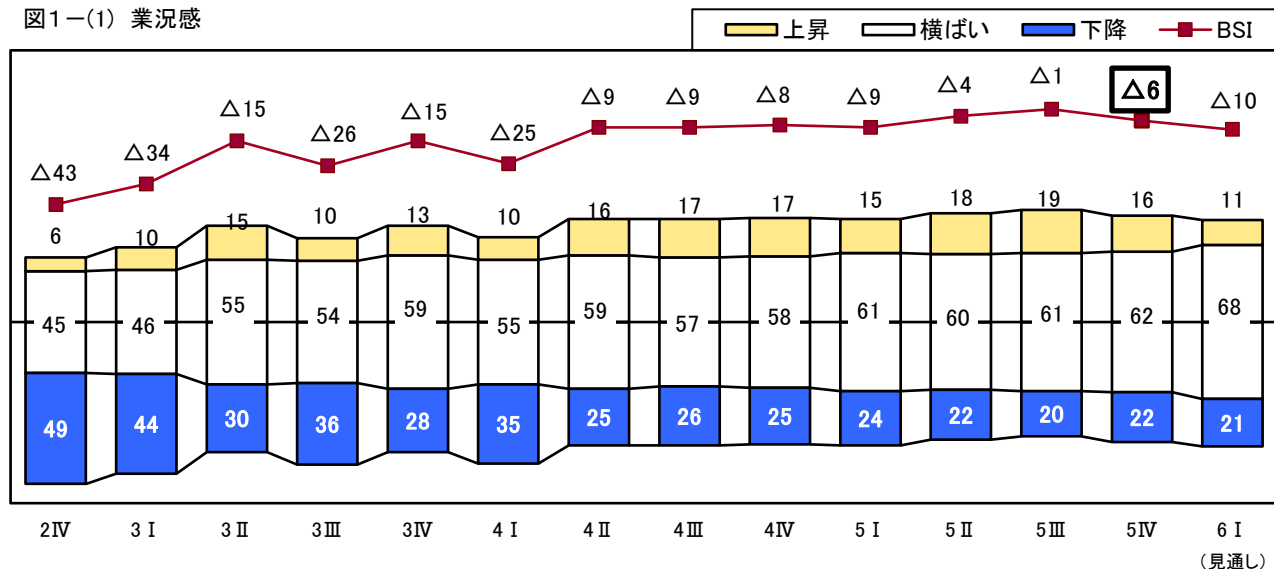
(1) 業況感

今期の業況感BSIは△6(前期から5ポイント下降)

- 業種別にみると、サービス業はプラス幅が縮小、卸売・小売業、運輸業はマイナスに転換、製造業はマイナス幅が縮小、建設業はマイナス幅が拡大。
- 地域別にみると、道央はプラス幅が縮小、道南はマイナスに転換、道北、釧路・根室はマイナス幅が縮小、オホーツク、十勝はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは△10(今期から4ポイント下降)

図1-(1) 業況感



※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

表1-(1) 業況感(業種・資本金・地域別)

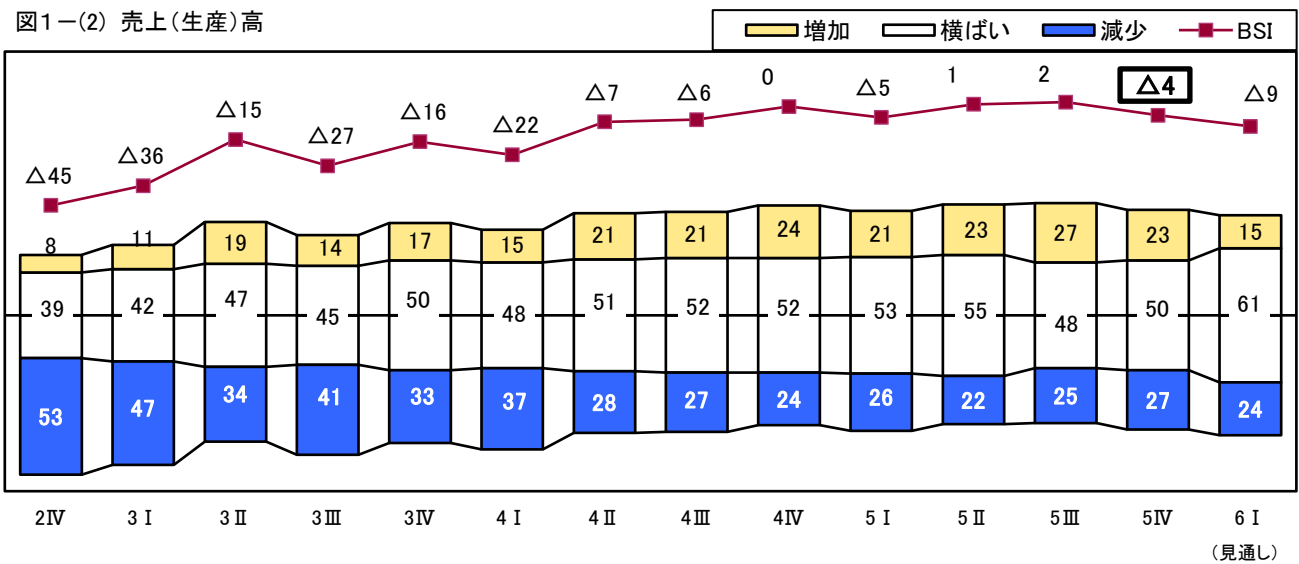
区分	R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
総計	△1	16	62	22	△6	△5	11	68	21	△10	△4
札幌市を除く	△4	17	60	23	△6	△2	10	68	22	△12	△6
札幌市	10	16	63	21	△5	△15	12	72	16	△4	1
業種											
建設業	△4	10	69	21	△11	△7	5	73	22	△17	△6
製造業	△24	14	58	28	△14	10	12	61	27	△15	△1
卸売・小売業	0	17	49	34	△17	△17	9	67	24	△15	2
運輸業	5	13	67	20	△7	△12	11	72	17	△6	1
サービス業	12	23	64	13	10	△2	14	70	16	△2	△12
資本金											
5千万円未満	△4	15	61	24	△9	△5	10	65	25	△15	△6
5千万円以上～1億円未満	1	13	66	21	△8	△9	7	74	19	△12	△4
1億円以上	13	26	58	16	10	△3	17	77	6	11	1
地域											
道南	1	17	61	22	△5	△6	6	74	20	△14	△9
道央	5	18	64	18	0	△5	12	71	17	△5	△5
札幌市を除く	△3	17	69	14	3	6	13	69	18	△5	△8
札幌市	10	16	63	21	△5	△15	12	72	16	△4	1
道北	△6	18	60	22	△4	2	12	66	22	△10	△6
オホーツク	△7	14	55	31	△17	△10	10	61	29	△19	△2
十勝	△2	15	55	30	△15	△13	10	63	27	△17	△2
釧路・根室	△15	13	60	27	△14	1	9	66	25	△16	△2

(2) 売上(生産)高

今期の売上(生産)高BSIは△4(前期から6ポイント下降)

- 業種別でみると、サービス業はプラス幅が縮小、卸売・小売業、運輸業はマイナスに転換、建設業、製造業はマイナス幅が拡大。
- 地域別でみると、道央はプラス幅が縮小、釧路・根室はマイナス幅が縮小、道南、道北、オホーツク、十勝はマイナス幅が拡大。

来期の売上(生産)高BSIは△9(今期から5ポイント下降)



※「増加」「横ばい」「減少」は%、BSIはポイント(「増加」-「減少」)

表1-(2) 売上(生産)高(業種・資本金・地域別)

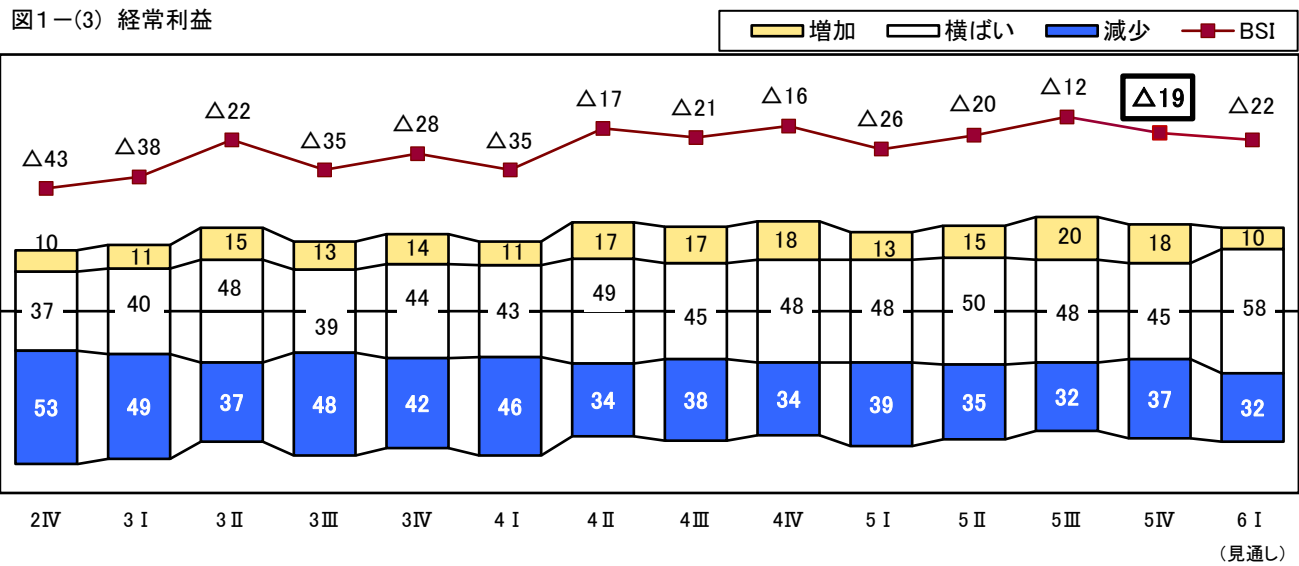
区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総 計		2	23	50	27	△ 4	△ 6	15	61	24	△ 9	△ 5
札幌市を除く		△ 2	21	50	29	△ 8	△ 6	15	60	25	△ 10	△ 2
札幌市		18	29	48	23	6	△ 12	17	64	19	△ 2	△ 8
業 種	建設業	△ 9	17	56	27	△ 10	△ 1	10	63	27	△ 17	△ 7
	製造業	△ 9	22	46	32	△ 10	△ 1	21	48	31	△ 10	0
	卸売・小売業	7	23	41	36	△ 13	△ 20	11	64	25	△ 14	△ 1
	運輸業	1	20	56	24	△ 4	△ 5	16	66	18	△ 2	2
	サービス業	14	30	50	20	10	△ 4	18	64	18	0	△ 10
資 本 金	5千万円未満	△ 3	22	48	30	△ 8	△ 5	15	59	26	△ 11	△ 3
	5千万円以上～1億円未満	2	22	53	25	△ 3	△ 5	9	66	25	△ 16	△ 13
	1億円以上	22	32	50	18	14	△ 8	23	65	12	11	△ 3
地 域	道南	△ 2	25	47	28	△ 3	△ 1	14	60	26	△ 12	△ 9
	道央	13	28	52	20	8	△ 5	16	66	18	△ 2	△ 10
	札幌市を除く	6	27	55	18	9	3	16	65	19	△ 3	△ 12
	札幌市	18	29	48	23	6	△ 12	17	64	19	△ 2	△ 8
	道北	△ 1	22	47	31	△ 9	△ 8	16	55	29	△ 13	△ 4
	オホーツク	△ 7	14	49	37	△ 23	△ 16	10	59	31	△ 21	2
	十勝	△ 4	20	43	37	△ 17	△ 13	23	54	23	0	17
	釧路・根室	△ 16	15	56	29	△ 14	2	7	68	25	△ 18	△ 4

(3) 経常利益

今期の経常利益BSIは △19(前期から7ポイント下降)

- ・ 業種別でみると、サービス業はマイナスに転換、その他の業種はマイナス幅が拡大。
- ・ 地域別でみると、道北は横ばい、その他の地域はマイナス幅が拡大。

来期の経常利益BSIは △22(今期から3ポイント下降)



※「増加」「横ばい」「減少」は%、BSIはポイント(「増加」ー「減少」)

表1ー(3) 経常利益(業種・資本金・地域別)

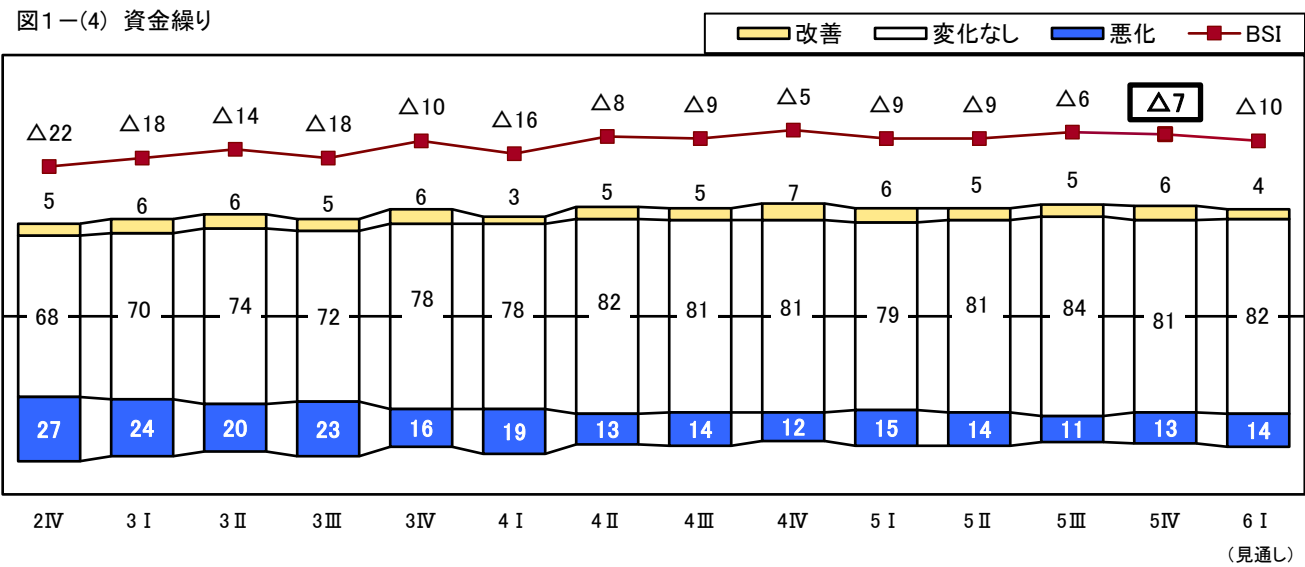
区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総 計		△ 12	18	45	37	△ 19	△ 7	10	58	32	△ 22	△ 3
	札幌市を除く	△ 15	17	45	38	△ 21	△ 6	10	57	33	△ 23	△ 2
	札幌市	1	22	45	33	△ 11	△ 12	11	61	28	△ 17	△ 6
業 種	建設業	△ 21	11	47	42	△ 31	△ 10	8	51	41	△ 33	△ 2
	製造業	△ 24	12	50	38	△ 26	△ 2	14	48	38	△ 24	2
	卸売・小売業	△ 13	23	37	40	△ 17	△ 4	7	61	32	△ 25	△ 8
	運輸業	△ 13	15	47	38	△ 23	△ 10	9	62	29	△ 20	3
	サービス業	5	26	45	29	△ 3	△ 8	13	62	25	△ 12	△ 9
資 本 金	5千万円未満	△ 17	16	46	38	△ 22	△ 5	10	56	34	△ 24	△ 2
	5千万円以上～1億円未満	0	16	48	36	△ 20	△ 20	4	63	33	△ 29	△ 9
	1億円以上	△ 1	31	40	29	2	3	21	56	23	△ 2	△ 4
地 域	道南	△ 11	22	43	35	△ 13	△ 2	11	55	34	△ 23	△ 10
	道央	△ 1	23	48	29	△ 6	△ 5	12	61	27	△ 15	△ 9
	札幌市を除く	△ 6	25	48	27	△ 2	4	13	56	31	△ 18	△ 16
	札幌市	1	22	45	33	△ 11	△ 12	11	61	28	△ 17	△ 6
	道北	△ 24	21	34	45	△ 24	0	12	53	35	△ 23	1
	オホーツク	△ 22	10	45	45	△ 35	△ 13	8	59	33	△ 25	10
	十勝	△ 14	8	45	47	△ 39	△ 25	10	48	42	△ 32	7
	釧路・根室	△ 24	9	56	35	△ 26	△ 2	4	61	35	△ 31	△ 5

(4) 資金繰り

今期の資金繰りBSIは △7(前期から1ポイント下降)

- ・ 業種別にみると、建設業、卸売・小売業は横ばい、製造業、運輸業、サービス業はマイナス幅が拡大。
- ・ 地域別にみると、道南、道央、釧路・根室はマイナス幅が縮小、道北、オホーツク、十勝はマイナス幅が拡大。

来期の資金繰りBSIは △10(今期から3ポイント下降)



※「改善」「変化なし」「悪化」は%、BSIはポイント(「改善」-「悪化」)

表1-(4) 資金繰り(業種・資本金・地域別)

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			改善	変化なし	悪化	BSI	変化幅	改善	変化なし	悪化	BSI	変化幅
総 計		△ 6	6	81	13	△ 7	△ 1	4	82	14	△ 10	△ 3
	札幌市を除く	△ 8	5	81	14	△ 9	△ 1	4	81	15	△ 11	△ 2
	札幌市	△ 1	9	80	11	△ 2	△ 1	7	82	11	△ 4	△ 2
業 種	建設業	△ 6	4	86	10	△ 6	0	4	88	8	△ 4	2
	製造業	△ 8	2	86	12	△ 10	△ 2	3	85	12	△ 9	1
	卸売・小売業	△ 12	10	68	22	△ 12	0	4	72	24	△ 20	△ 8
	運輸業	△ 3	2	89	9	△ 7	△ 4	1	87	12	△ 11	△ 4
	サービス業	△ 3	9	78	13	△ 4	△ 1	8	79	13	△ 5	△ 1
資 本 金	5千万円未満	△ 9	5	79	16	△ 11	△ 2	4	79	17	△ 13	△ 2
	5千万円以上～1億円未満	△ 1	6	85	9	△ 3	△ 2	4	87	9	△ 5	△ 2
	1億円以上	1	9	87	4	5	4	5	90	5	0	△ 5
地 域	道南	△ 8	6	83	11	△ 5	3	6	77	17	△ 11	△ 6
	道央	△ 4	9	80	11	△ 2	2	6	84	10	△ 4	△ 2
	札幌市を除く	△ 8	9	78	13	△ 4	4	6	82	12	△ 6	△ 2
	札幌市	△ 1	9	80	11	△ 2	△ 1	7	82	11	△ 4	△ 2
	道北	△ 7	5	78	17	△ 12	△ 5	4	77	19	△ 15	△ 3
	オホーツク	△ 5	2	82	16	△ 14	△ 9	2	86	12	△ 10	4
	十勝	△ 9	2	80	18	△ 16	△ 7	3	82	15	△ 12	4
	釧路・根室	△ 11	4	83	13	△ 9	2	0	84	16	△ 16	△ 7

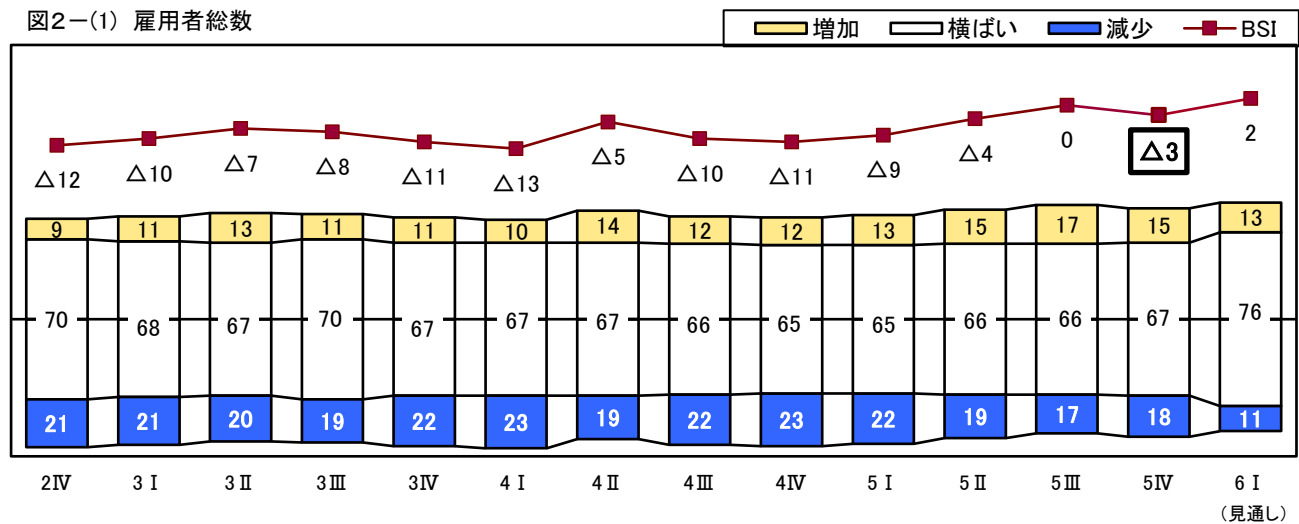
2 雇用状況

(1) 雇用者総数

今期の雇用者総数BSIは △3(前期から3ポイント下降)

- 業種別にみると、卸売・小売業、サービス業はプラス幅が縮小、運輸業はマイナスに転換、建設業、製造業はマイナス幅が縮小。
- 地域別にみると、道央、十勝はプラス幅が縮小、道南はマイナス幅が縮小、道北、オホーツク、釧路・根室はマイナス幅が拡大。

来期の雇用者総数BSIは 2(今期から5ポイント上昇)



※「増加」「横ばい」「減少」は%、BSIはポイント(「増加」－「減少」)

表2-(1) 雇用者総数(業種・資本金・地域別)

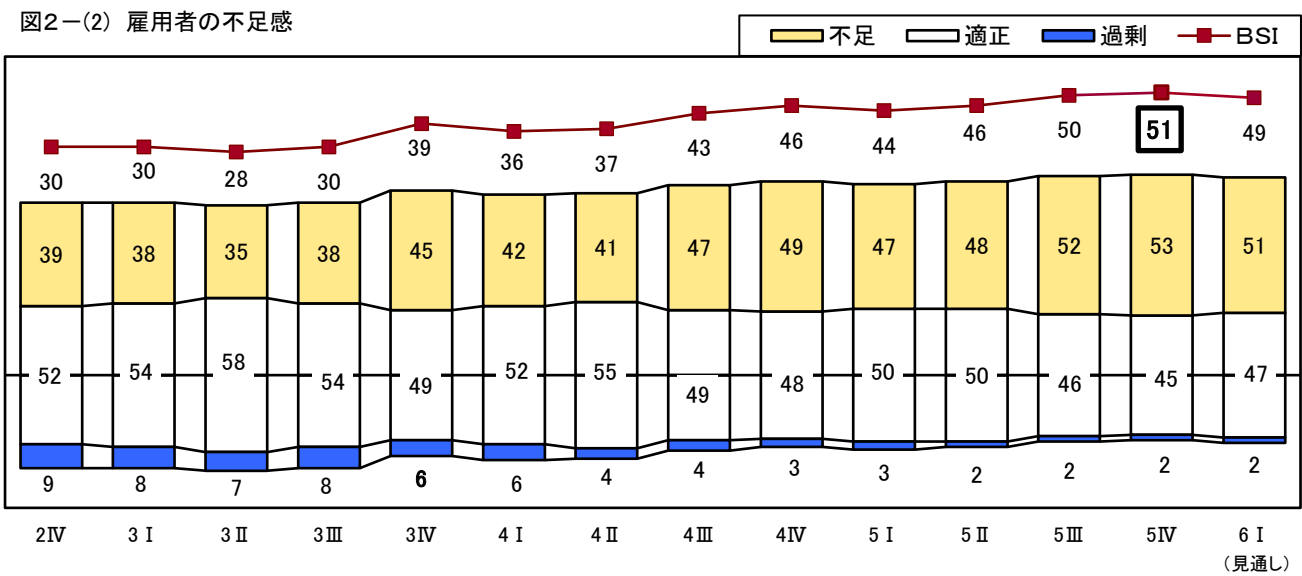
区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総 計		0	15	67	18	△ 3	△ 3	13	76	11	2	5
	札幌市を除く	△ 4	13	68	19	△ 6	△ 2	12	75	13	△ 1	5
	札幌市	13	22	67	11	11	△ 2	16	80	4	12	1
業 種	建設業	△ 3	15	69	16	△ 1	2	17	76	7	10	11
	製造業	△ 16	12	62	26	△ 14	2	11	75	14	△ 3	11
	卸売・小売業	2	14	73	13	1	△ 1	11	76	13	△ 2	△ 3
	運輸業	2	10	68	22	△ 12	△ 14	5	74	21	△ 16	△ 4
	サービス業	9	20	67	13	7	△ 2	17	78	5	12	5
資 本 金	5千万円未満	△ 2	14	69	17	△ 3	△ 1	11	78	11	0	3
	5千万円以上～1億円未満	4	13	66	21	△ 8	△ 12	14	72	14	0	8
	1億円以上	2	22	61	17	5	3	18	76	6	12	7
地 域	道南	△ 8	9	79	12	△ 3	5	6	83	11	△ 5	△ 2
	道央	7	15	71	14	1	△ 6	12	83	5	7	6
	札幌市を除く	△ 3	3	75	22	△ 19	△ 16	4	87	9	△ 5	14
	札幌市	13	22	67	11	11	△ 2	16	80	4	12	1
	道北	△ 5	18	58	24	△ 6	△ 1	17	67	16	1	7
	オホーツク	△ 10	10	68	22	△ 12	△ 2	10	68	22	△ 12	0
	十勝	2	20	60	20	0	△ 2	15	70	15	0	0
	釧路・根室	△ 5	15	63	22	△ 7	△ 2	16	73	11	5	12

(2)雇用者の不足感

今期の雇用者の不足感BSIは 51(前期から1ポイント上昇)

- 業種別にみると、建設業、サービス業はプラス幅が縮小、製造業、卸売・小売業、運輸業はプラス幅が拡大。
- 地域別にみると、道南、オホーツクはプラス幅が縮小、道央は横ばい、道北、十勝、釧路・根室はプラス幅が拡大。

来期の雇用者の不足感BSIは 49(今期から2ポイント下降)



※「不足」「適正」「過剰」は%、BSIはポイント(「不足」-「過剰」)

表2-(2) 雇用者の不足感(業種・資本金・地域別)

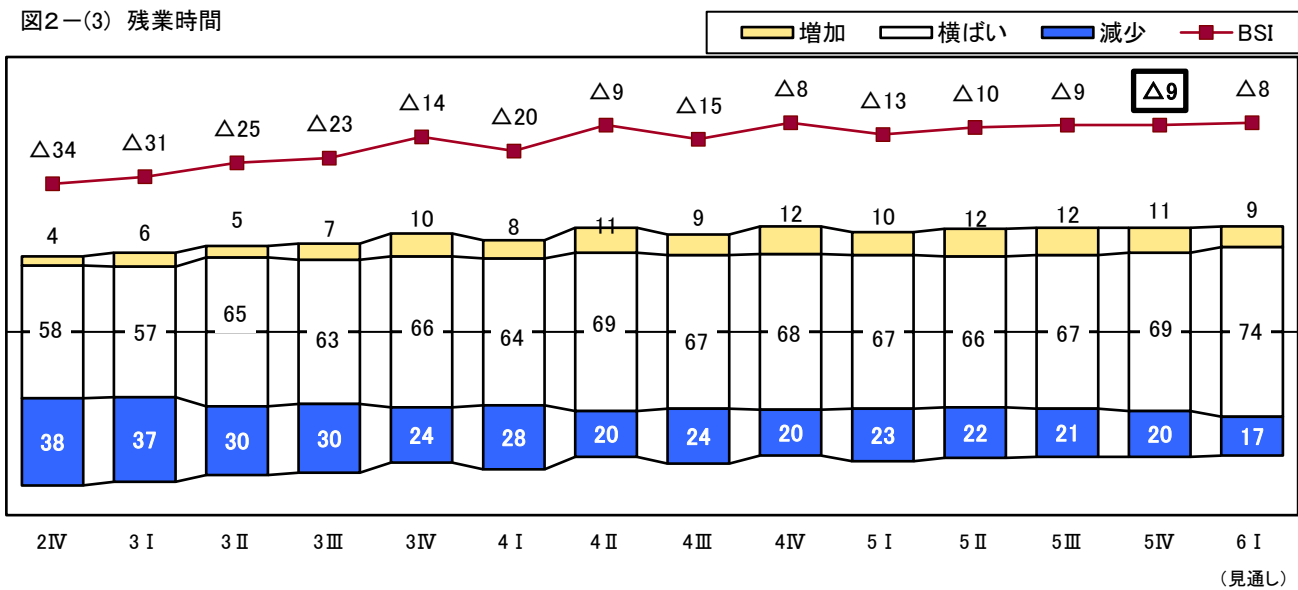
区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			不足	適正	過剰	BSI	変化幅	不足	適正	過剰	BSI	変化幅
総 計		50	53	45	2	51	1	51	47	2	49	△ 2
	札幌市を除く	53	54	44	2	52	△ 1	53	45	2	51	△ 1
	札幌市	40	50	47	3	47	7	43	54	3	40	△ 7
業 種	建設業	70	68	31	1	67	△ 3	65	33	2	63	△ 4
	製造業	39	49	48	3	46	7	47	51	2	45	△ 1
	卸売・小売業	46	53	45	2	51	5	51	48	1	50	△ 1
	運輸業	56	59	39	2	57	1	57	42	1	56	△ 1
	サービス業	44	44	53	3	41	△ 3	42	55	3	39	△ 2
資 本 金	5千万円未満	48	50	48	2	48	0	49	50	1	48	0
	5千万円以上～1億円未満	55	61	37	2	59	4	55	42	3	52	△ 7
	1億円以上	47	61	35	4	57	10	57	40	3	54	△ 3
地 域	道南	46	48	46	6	42	△ 4	51	44	5	46	4
	道央	44	47	50	3	44	0	42	56	2	40	△ 4
	札幌市を除く	46	44	55	1	43	△ 3	43	56	1	42	△ 1
	札幌市	40	50	47	3	47	7	43	54	3	40	△ 7
	道北	55	63	34	3	60	5	61	37	2	59	△ 1
	オホーツク	59	55	45	0	55	△ 4	59	41	0	59	4
	十勝	58	62	38	0	62	4	60	38	2	58	△ 4
	釧路・根室	55	58	42	0	58	3	51	49	0	51	△ 7

(3) 残業時間

今期の残業時間BSIは△9(前期から横ばい)

- 業種別にみると、建設業はマイナス幅が拡大、製造業、卸売・小売業、運輸業はマイナス幅が縮小、サービス業はプラス幅が縮小。
- 地域別にみると、道央はマイナス幅が拡大、道南、道北、オホーツク、釧路・根室はマイナス幅が縮小、十勝は横ばい。

来期の残業時間BSIは△8(今期から1ポイント上昇)



※「増加」「横ばい」「減少」は%、BSIはポイント(「増加」―「減少」)

表2-(3) 残業時間(業種・資本金・地域別)

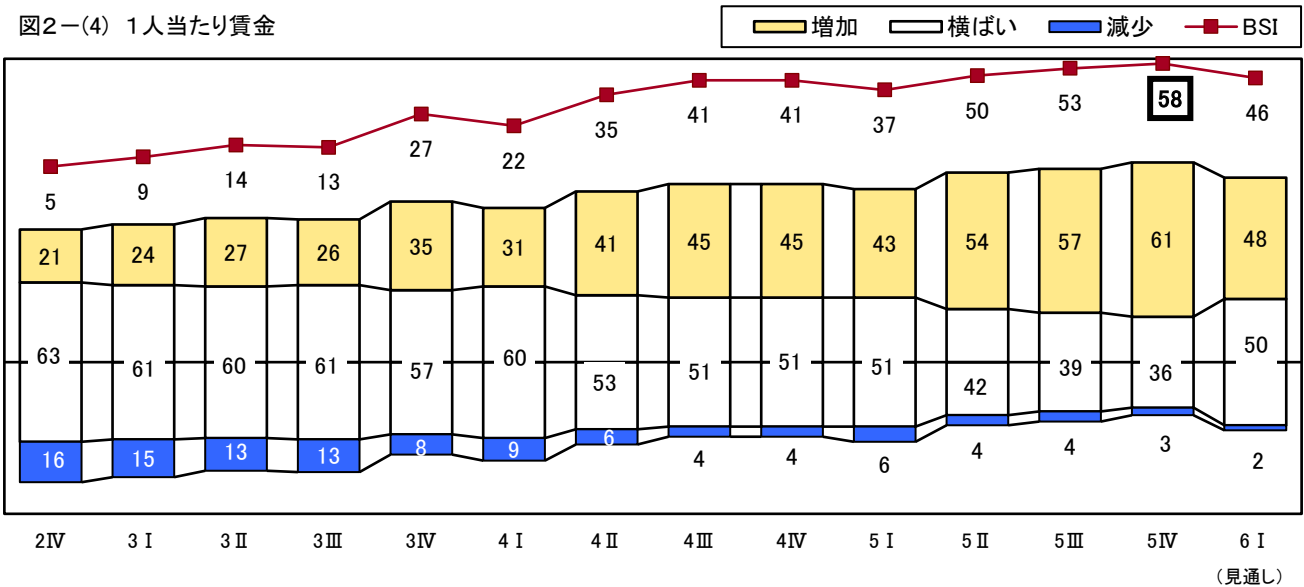
区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総 計		△ 9	11	69	20	△ 9	0	9	74	17	△ 8	1
	札幌市を除く	△ 11	11	68	21	△ 10	1	9	72	19	△ 10	0
	札幌市	△ 4	13	69	18	△ 5	△ 1	10	78	12	△ 2	3
業 種	建設業	△ 23	6	58	36	△ 30	△ 7	4	69	27	△ 23	7
	製造業	△ 15	9	70	21	△ 12	3	11	67	22	△ 11	1
	卸売・小売業	△ 7	10	76	14	△ 4	3	7	79	14	△ 7	△ 3
	運輸業	△ 20	9	71	20	△ 11	9	7	75	18	△ 11	0
	サービス業	5	18	68	14	4	△ 1	14	77	9	5	1
資 本 金	5千万円未満	△ 15	9	70	21	△ 12	3	8	74	18	△ 10	2
	5千万円以上～1億円未満	△ 2	15	67	18	△ 3	△ 1	9	74	17	△ 8	△ 5
	1億円以上	8	16	67	17	△ 1	△ 9	16	71	13	3	4
地 域	道南	△ 10	15	67	18	△ 3	7	11	71	18	△ 7	△ 4
	道央	△ 2	10	72	18	△ 8	△ 6	8	76	16	△ 8	0
	札幌市を除く	△ 1	9	72	19	△ 10	△ 9	8	70	22	△ 14	△ 4
	札幌市	△ 4	13	69	18	△ 5	△ 1	10	78	12	△ 2	3
	道北	△ 10	16	61	23	△ 7	3	13	70	17	△ 4	3
	オホーツク	△ 15	6	74	20	△ 14	1	10	78	12	△ 2	12
	十勝	△ 21	7	65	28	△ 21	0	10	63	27	△ 17	4
	釧路・根室	△ 20	11	73	16	△ 5	15	5	80	15	△ 10	△ 5

(4) 1人当たり賃金

今期の1人当たり賃金BSIは58(前期から5ポイント上昇)

- 業種別にみると、建設業はプラス幅が縮小、その他の業種はプラス幅は拡大。
- 地域別にみると、オホーツクはプラス幅が縮小、その他の地域はプラス幅が拡大。

来期の1人当たり賃金BSIは46(今期から12ポイント下降)



※「増加」「横ばい」「減少」は%、BSIはポイント(「増加」-「減少」)

表2-(4) 1人当たり賃金(業種・資本金・地域別)

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総 計		53	61	36	3	58	5	48	50	2	46	△ 12
	札幌市を除く	49	59	38	3	56	7	47	50	3	44	△ 12
	札幌市	67	67	31	2	65	△ 2	51	49	0	51	△ 14
業 種	建設業	74	68	32	0	68	△ 6	54	46	0	54	△ 14
	製造業	54	66	29	5	61	7	50	46	4	46	△ 15
	卸売・小売業	52	63	34	3	60	8	56	44	0	56	△ 4
	運輸業	39	44	52	4	40	1	30	64	6	24	△ 16
	サービス業	50	60	38	2	58	8	46	52	2	44	△ 14
資 本 金	5千万円未満	45	58	39	3	55	10	47	51	2	45	△ 10
	5千万円以上～1億円未満	67	65	35	0	65	△ 2	48	51	1	47	△ 18
	1億円以上	76	65	32	3	62	△ 14	48	49	3	45	△ 17
地 域	道南	45	48	52	0	48	3	37	61	2	35	△ 13
	道央	58	62	35	3	59	1	46	53	1	45	△ 14
	札幌市を除く	49	55	41	4	51	2	40	57	3	37	△ 14
	札幌市	67	67	31	2	65	△ 2	51	49	0	51	△ 14
	道北	54	60	38	2	58	4	49	50	1	48	△ 10
	オホーツク	56	59	35	6	53	△ 3	53	41	6	47	△ 6
	十勝	57	68	29	3	65	8	58	37	5	53	△ 12
	釧路・根室	38	64	34	2	62	24	45	53	2	43	△ 19

3 在庫、価格水準

(1) 製造業

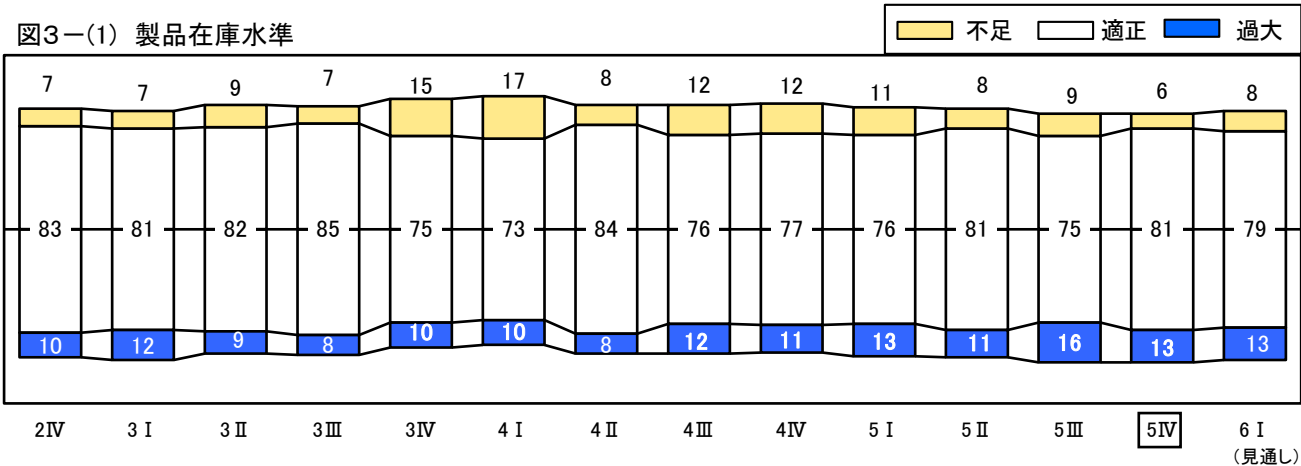
今期の実績

- ・製品在庫水準は、「適正」が81%と最も多い。
- ・仕入価格は、「上昇」が79%となり、前期より3ポイント縮小したが、高水準が続いている。
- ・製品価格は、「上昇」が56%となり、前期より3ポイント縮小したが、高水準が続いている。

来期の見通し

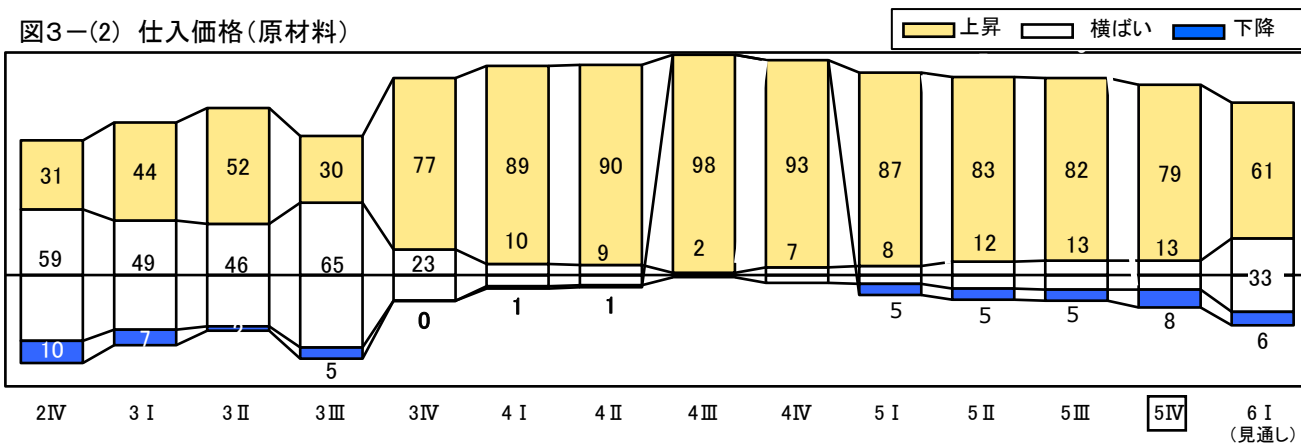
- ・仕入価格は「上昇」が18ポイント縮小する見込み。
- ・製品価格は「上昇」が11ポイント縮小する見込み。

図3－(1) 製品在庫水準



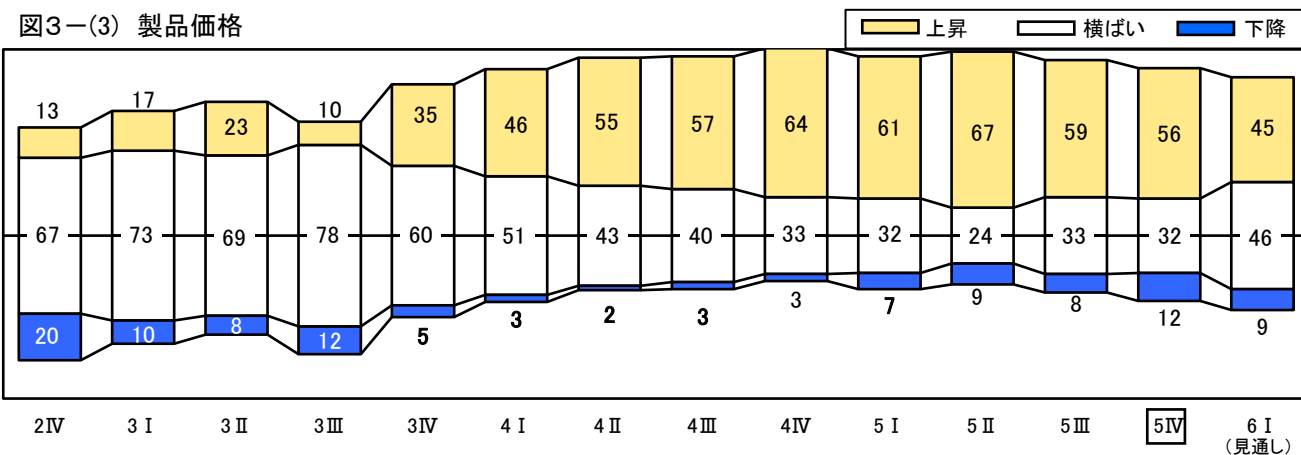
※「不足」「適正」「過大」は%

図3－(2) 仕入価格(原材料)



※「上昇」「横ばい」「下降」は%

図3－(3) 製品価格



※「上昇」「横ばい」「下降」は%

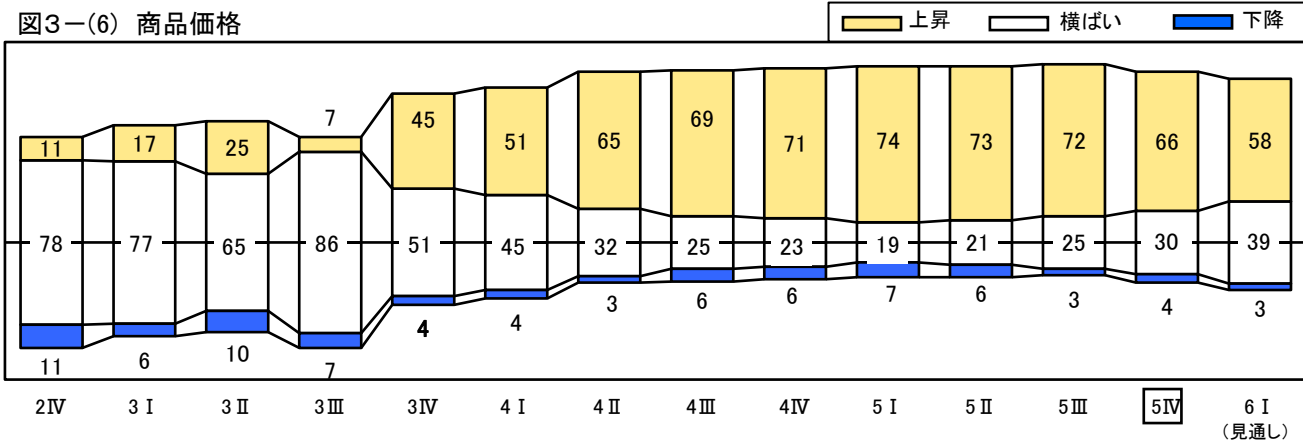
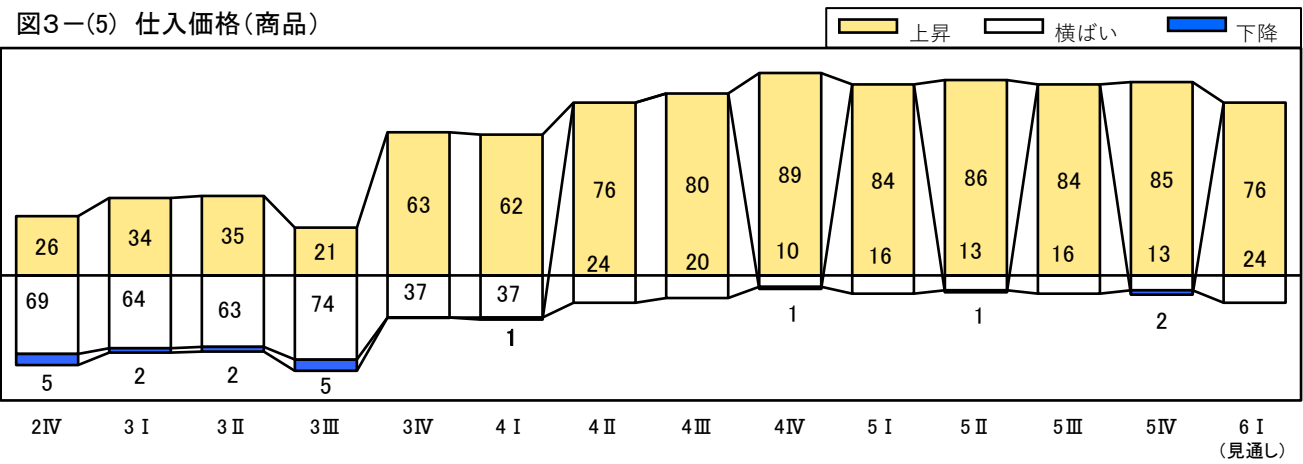
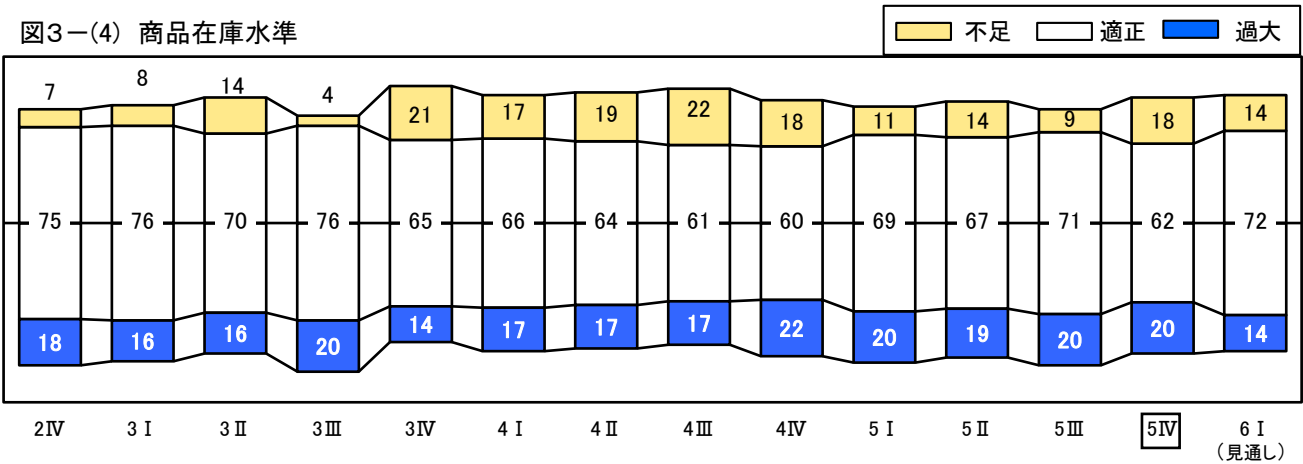
(2) 卸売・小売業

今期の実績

- ・商品在庫水準は、「適性」が62%と最も多い。
- ・仕入価格は、「上昇」が85%となり、前期より1ポイント拡大したが、高水準が続いている。
- ・商品価格は、「上昇」が66%となり、前期より6ポイント縮小したが、高水準が続いている。

来期の見通し

- ・仕入価格は、「上昇」が9ポイント縮小する見込み。
- ・商品価格は、「上昇」が8ポイント縮小する見込み。



4 設備投資の状況

今期の実績

- ・「設備投資をした」と回答した企業は36%で、前期から2ポイント上昇。
- ・設備投資の目的については、「設備更新」が80%、「合理化・省力化」が23%、「生産・販売能力拡大」が20%の順(複数回答)。

来期の見通し

- ・「設備投資をする」と回答した企業は33%で、今期から3ポイント下降。
- ・設備投資の目的については、今期同様の傾向。

図4-1(1) 設備投資の状況

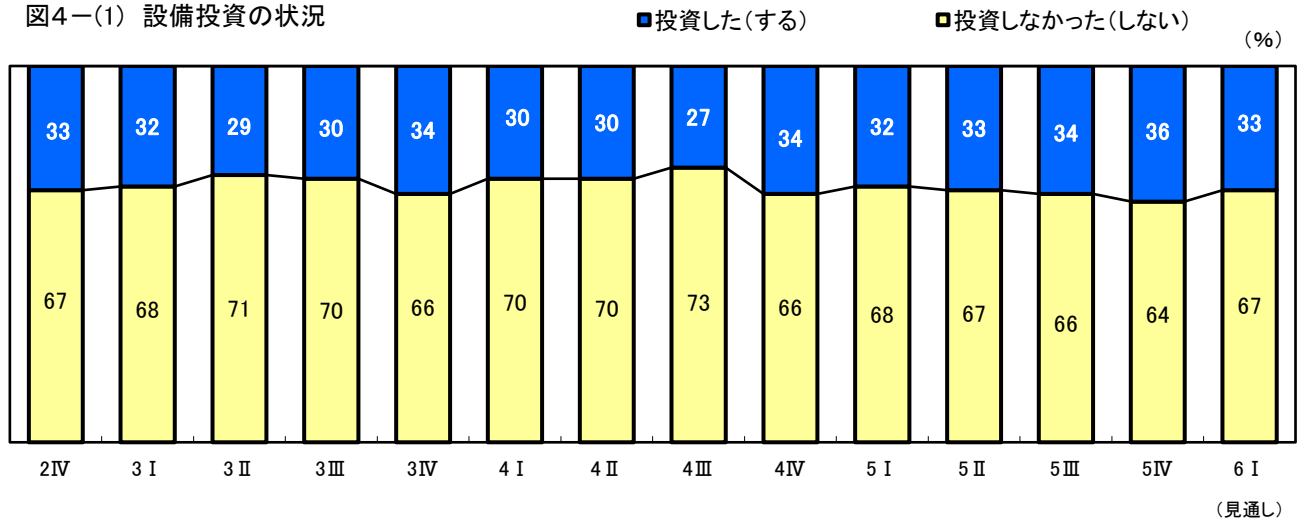


図4-1(2) 設備投資の目的(複数回答)

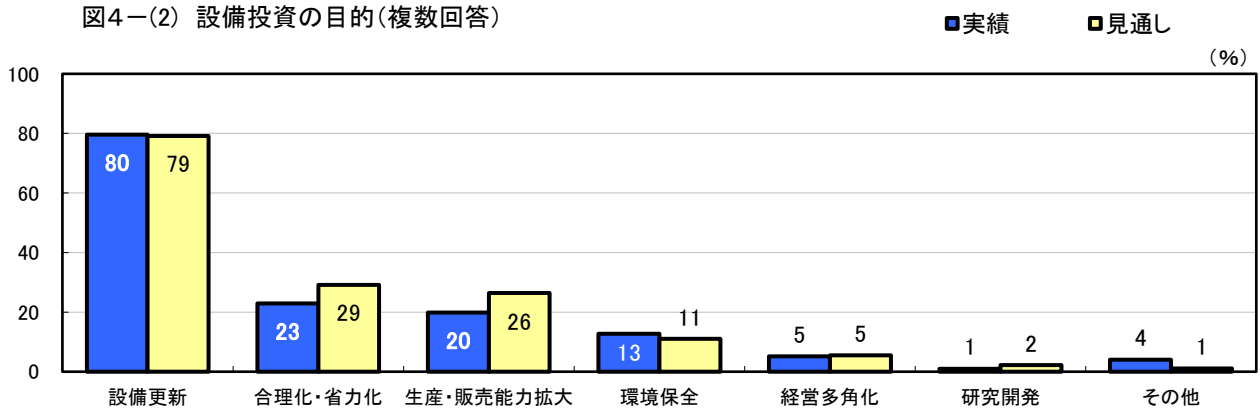


表4-(1) 設備投資の状況(R5年10-12月実績)(業種・資本金・地域別) (％)

区分		R5年7-9月 設備投資した	R5年10-12月 設備投資した	設備投資の目的（複数回答）						
				設備 更新	合理化 省力化	生産・販 売能力 拡大	環境 保全	経 営 多角化	研究 開発	その他
総 計		34	36	80	23	20	13	5	1	4
札幌市を除く		31	36	78	21	17	15	6	1	5
札幌市		43	36	86	30	30	5	2	0	2
業 種	建設業	26	29	83	21	17	10	3	3	7
	製造業	45	37	79	34	18	24	3	3	5
	卸売・小売業	33	38	74	23	28	18	8	0	3
	運輸業	42	45	84	8	11	8	11	0	3
	サービス業	26	33	79	26	23	6	2	0	4
資 本 金	5千万円未満	28	33	76	22	21	11	7	0	5
	5千万円以上～1億円未満	34	32	78	19	16	19	3	0	3
	1億円以上	59	53	90	29	20	15	2	5	2
地 域	道南	30	29	74	5	16	5	11	0	5
	道央	36	36	81	29	30	6	3	1	4
	札幌市を除く	27	32	76	32	32	12	0	4	4
	札幌市	43	36	86	30	30	5	2	0	2
	道北	32	38	89	17	8	17	0	0	0
	オホーツク	37	31	40	47	13	27	27	0	7
	十勝	33	38	83	22	22	13	9	4	9
	釧路・根室	30	42	87	13	9	26	0	0	4

表4-(1) 設備投資の状況(R6年1-3月見通し)(業種・資本金・地域別) (％)

区分		R6年1-3月 設備投資する	設 備 投 資 の 目 的 (複 数 回 答)						
			設備 更新	合理化 省力化	生産・販 売能力 拡大	環境 保全	経 営 多角化	研究 開発	その他
総 計		33	79	29	26	11	5	2	1
	札幌市を除く	32	78	28	24	13	5	1	1
	札幌市	39	83	33	35	4	7	4	2
業 種	建設業	22	95	23	14	9	5	5	5
	製造業	41	79	36	26	14	2	5	2
	卸売・小売業	36	65	30	38	16	3	0	0
	運輸業	37	90	10	10	10	7	0	0
	サービス業	32	76	37	33	6	10	2	0
資 本 金	5千万円未満	30	76	28	27	10	7	1	1
	5千万円以上～1億円未満	30	83	27	20	10	3	0	0
	1億円以上	53	85	34	29	15	2	7	2
地 域	道南	26	76	41	24	12	6	0	0
	道央	38	79	35	30	6	5	4	1
	札幌市を除く	36	79	39	25	11	0	4	0
	札幌市	39	83	33	35	4	7	4	2
	道北	28	74	7	30	15	7	0	4
	オホーツク	29	79	43	29	14	14	0	0
	十勝	32	84	26	26	16	5	5	0
	釧路・根室	38	86	19	10	19	0	0	0

5 地域別にみる各産業の動向

(1) 道南

今期の業況感BSIは △5(前期から6ポイント下降)

- 業種別にみると、サービス業はプラス幅が拡大、運輸業はプラス幅が縮小、建設業は横ばい、卸売・小売業はマイナスに転換、製造業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは △14(今期から9ポイント下降)

図5－(1) 地域別BSIの推移【道南】

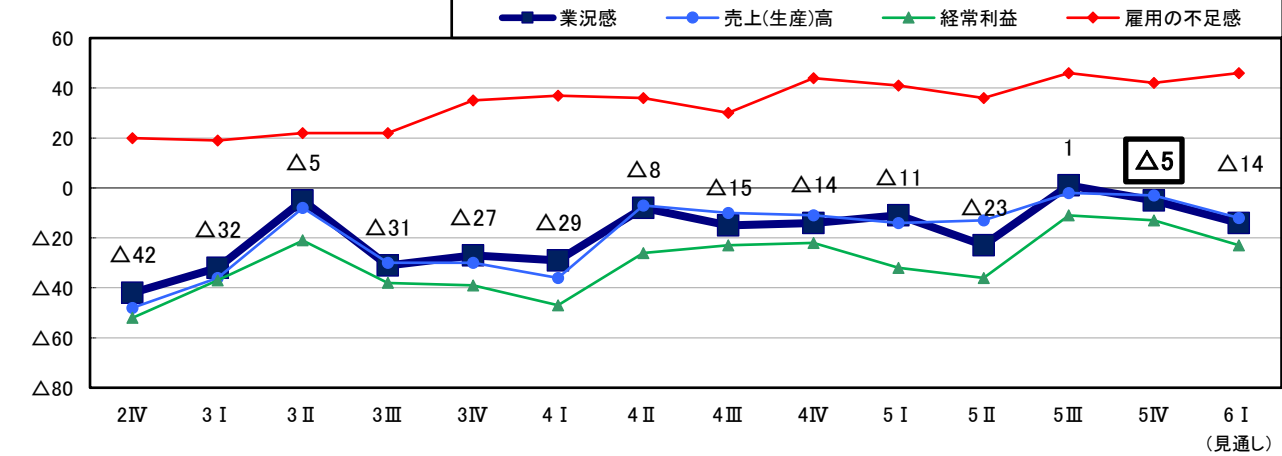


表5－(1) 地域別BSI【道南】

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	1	17	61	22	△ 5	△ 6	6	74	20	△ 14	△ 9
	建設業	0	23	54	23	0	0	0	77	23	△ 23	△ 23
	製造業	△ 33	0	60	40	△ 40	△ 7	0	60	40	△ 40	0
	卸売・小売業	7	7	57	36	△ 29	△ 36	7	72	21	△ 14	15
	運輸業	43	33	56	11	22	△ 21	11	78	11	0	△ 22
	サービス業	12	21	74	5	16	4	11	78	11	0	△ 16
売上 (生産)高	全産業	△ 2	25	47	28	△ 3	△ 1	14	60	26	△ 12	△ 9
	建設業	0	23	54	23	0	0	8	61	31	△ 23	△ 23
	製造業	△ 33	10	30	60	△ 50	△ 17	10	40	50	△ 40	10
	卸売・小売業	△ 15	14	50	36	△ 22	△ 7	7	72	21	△ 14	8
	運輸業	43	44	45	11	33	△ 10	22	67	11	11	△ 22
	サービス業	17	32	52	16	16	△ 1	21	58	21	0	△ 16
経常利益	全産業	△ 11	22	43	35	△ 13	△ 2	11	55	34	△ 23	△ 10
	建設業	△ 22	15	39	46	△ 31	△ 9	8	38	54	△ 46	△ 15
	製造業	△ 47	10	40	50	△ 40	7	10	40	50	△ 40	0
	卸売・小売業	△ 29	14	57	29	△ 15	14	0	79	21	△ 21	△ 6
	運輸業	43	44	23	33	11	△ 32	11	67	22	△ 11	△ 22
	サービス業	17	26	48	26	0	△ 17	21	53	26	△ 5	△ 5
雇用者の 不足感	全産業	46	48	46	6	42	△ 4	51	44	5	46	4
	建設業	78	69	31	0	69	△ 9	77	23	0	77	8
	製造業	33	30	50	20	10	△ 23	30	60	10	20	10
	卸売・小売業	43	50	50	0	50	7	57	43	0	57	7
	運輸業	71	67	33	0	67	△ 4	67	33	0	67	0
	サービス業	29	32	57	11	21	△ 8	32	57	11	21	0

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(2) 道央

今期の業況感BSIは 0(前期から5ポイント下降)

- 業種別にみると、建設業、製造業はプラスに転換、サービス業はプラス幅が縮小、卸売・小売業はマイナスに転換、運輸業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは △5(今期から5ポイント下降)

図5－(2) 地域別BSIの推移【道央】

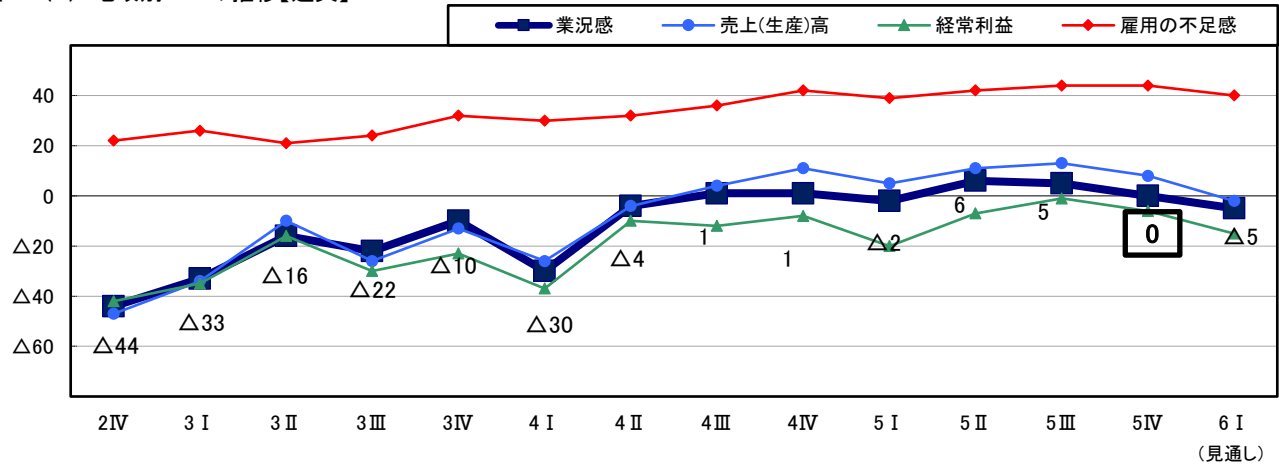


表5－(2) 地域別BSI【道央】

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	5	18	64	18	0	△ 5	12	71	17	△ 5	△ 5
	建設業	0	11	80	9	2	2	9	80	11	△ 2	△ 4
	製造業	△ 11	19	65	16	3	14	16	73	11	5	2
	卸売・小売業	10	24	43	33	△ 9	△ 19	14	59	27	△ 13	△ 4
	運輸業	△ 7	4	72	24	△ 20	△ 13	8	72	20	△ 12	8
	サービス業	17	20	69	11	9	△ 8	12	74	14	△ 2	△ 11
売上 (生産)高	全産業	13	28	52	20	8	△ 5	16	66	18	△ 2	△ 10
	建設業	5	29	62	9	20	15	14	69	17	△ 3	△ 23
	製造業	10	30	54	16	14	4	30	62	8	22	8
	卸売・小売業	20	29	36	35	△ 6	△ 26	16	57	27	△ 11	△ 5
	運輸業	△ 3	4	72	24	△ 20	△ 17	4	72	24	△ 20	0
	サービス業	19	36	47	17	19	0	14	69	17	△ 3	△ 22
経常利益	全産業	△ 1	23	48	29	△ 6	△ 5	12	61	27	△ 15	△ 9
	建設業	△ 11	17	63	20	△ 3	8	11	58	31	△ 20	△ 17
	製造業	△ 6	22	51	27	△ 5	1	19	59	22	△ 3	2
	卸売・小売業	0	33	30	37	△ 4	△ 4	12	51	37	△ 25	△ 21
	運輸業	△ 14	4	52	44	△ 40	△ 26	4	60	36	△ 32	8
	サービス業	10	26	49	25	1	△ 9	11	69	20	△ 9	△ 10
雇用者の 不足感	全産業	44	47	50	3	44	0	42	56	2	40	△ 4
	建設業	58	63	37	0	63	5	57	40	3	54	△ 9
	製造業	24	41	56	3	38	14	41	56	3	38	0
	卸売・小売業	46	53	43	4	49	3	47	51	2	45	△ 4
	運輸業	40	36	56	8	28	△ 12	28	68	4	24	△ 4
	サービス業	47	42	57	1	41	△ 6	38	62	0	38	△ 3

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(2)－① 道央(札幌市を除く)

今期の業況感BSIは 3(前期から6ポイント上昇)

- 業種別にみると、建設業はプラスに転換、サービス業はプラス幅が拡大、卸売・小売業はプラス幅が縮小、製造業、運輸業はマイナス幅が縮小。

来期の業況感BSIは △5(今期から8ポイント下降)

図5－(2)－① 地域別BSIの推移【道央(札幌市を除く)】

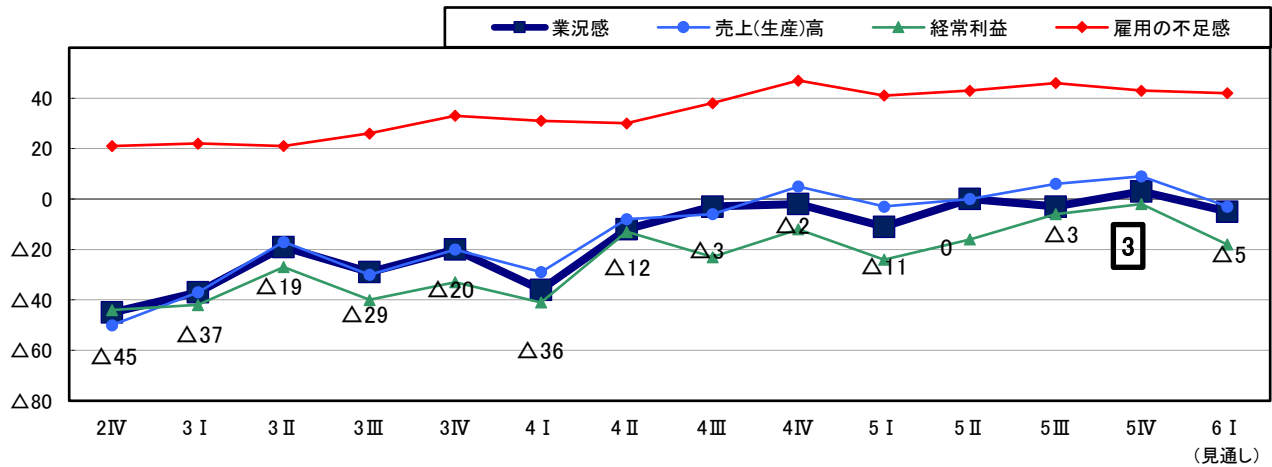


表5－(2)－① 地域別BSI【道央(札幌市を除く)】

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 3	17	69	14	3	6	13	69	18	△ 5	△ 8
	建設業	△ 7	14	79	7	7	14	7	72	21	△ 14	△ 21
	製造業	△ 34	17	55	28	△ 11	23	22	61	17	5	16
	卸売・小売業	27	19	68	13	6	△ 21	13	62	25	△ 12	△ 18
	運輸業	△ 14	0	90	10	△ 10	4	10	70	20	△ 10	0
	サービス業	11	26	63	11	15	4	11	78	11	0	△ 15
売上 (生産)高	全産業	6	27	55	18	9	3	16	65	19	△ 3	△ 12
	建設業	7	36	64	0	36	29	14	65	21	△ 7	△ 43
	製造業	△ 18	22	45	33	△ 11	7	22	67	11	11	22
	卸売・小売業	36	25	50	25	0	△ 36	13	56	31	△ 18	△ 18
	運輸業	△ 14	0	80	20	△ 20	△ 6	0	70	30	△ 30	△ 10
	サービス業	15	42	47	11	31	16	21	68	11	10	△ 21
経常利益	全産業	△ 6	25	48	27	△ 2	4	13	56	31	△ 18	△ 16
	建設業	△ 6	21	72	7	14	20	14	65	21	△ 7	△ 21
	製造業	△ 22	22	34	44	△ 22	0	17	55	28	△ 11	11
	卸売・小売業	16	38	43	19	19	3	13	43	44	△ 31	△ 50
	運輸業	△ 29	0	40	60	△ 60	△ 31	0	40	60	△ 60	0
	サービス業	4	32	52	16	16	12	16	68	16	0	△ 16
雇用の 不足感	全産業	46	44	55	1	43	△ 3	43	56	1	42	△ 1
	建設業	69	57	43	0	57	△ 12	57	43	0	57	0
	製造業	13	44	50	6	38	25	44	50	6	38	0
	卸売・小売業	47	44	56	0	44	△ 3	44	56	0	44	0
	運輸業	57	30	70	0	30	△ 27	30	70	0	30	0
	サービス業	56	42	58	0	42	△ 14	37	63	0	37	△ 5

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(2)－② 道央(札幌市)

今期の業況感BSIは△5(前期から15ポイント下降)

- 業種別にみると、建設業、製造業、サービス業はプラス幅が縮小、卸売・小売業、運輸業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは △4(今期から1ポイント上昇)

図5－(2)－② 地域別BSIの推移【道央(札幌市)】

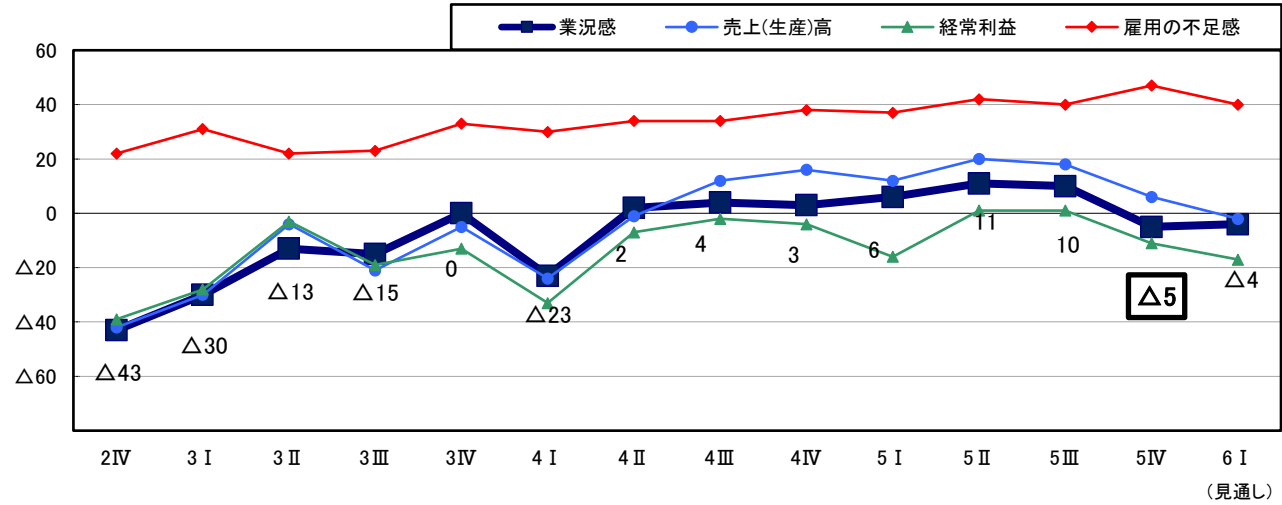


表5－(2)－② 地域別BSI【道央(札幌市)】

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	10	16	63	21	△ 5	△ 15	12	72	16	△ 4	1
	建設業	5	11	78	11	0	△ 5	11	89	0	11	11
	製造業	29	19	75	6	13	△ 16	13	81	6	7	△ 6
	卸売・小売業	△ 5	22	34	44	△ 22	△ 17	11	63	26	△ 15	7
	運輸業	△ 8	0	60	40	△ 40	△ 32	0	80	20	△ 20	20
	サービス業	19	17	70	13	4	△ 15	15	66	19	△ 4	△ 8
売上 (生産)高	全産業	18	29	48	23	6	△ 12	17	64	19	△ 2	△ 8
	建設業	5	26	58	16	10	5	16	73	11	5	△ 5
	製造業	57	38	62	0	38	△ 19	38	56	6	32	△ 6
	卸売・小売業	5	26	33	41	△ 15	△ 20	15	59	26	△ 11	4
	運輸業	0	0	70	30	△ 30	△ 30	0	80	20	△ 20	10
	サービス業	21	36	43	21	15	△ 6	15	62	23	△ 8	△ 23
経常利益	全産業	1	22	45	33	△ 11	△ 12	11	61	28	△ 17	△ 6
	建設業	△ 15	16	52	32	△ 16	△ 1	11	52	37	△ 26	△ 10
	製造業	22	19	68	13	6	△ 16	19	62	19	0	△ 6
	卸売・小売業	△ 15	26	30	44	△ 18	△ 3	11	56	33	△ 22	△ 4
	運輸業	△ 8	0	70	30	△ 30	△ 22	0	80	20	△ 20	10
	サービス業	11	28	38	34	△ 6	△ 17	11	63	26	△ 15	△ 9
雇用者の 不足感	全産業	40	50	47	3	47	7	43	54	3	40	△ 7
	建設業	50	63	37	0	63	13	58	37	5	53	△ 10
	製造業	43	38	62	0	38	△ 5	38	62	0	38	0
	卸売・小売業	45	52	41	7	45	0	44	52	4	40	△ 5
	運輸業	17	50	30	20	30	13	30	60	10	20	△ 10
	サービス業	41	47	53	0	47	6	40	60	0	40	△ 7

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」－「下降」)

(3) 道北

今期の業況感BSIは △4(前期から2ポイント上昇)

- 業種別にみると、サービス業はプラス幅が拡大、運輸業は横ばい、製造業はマイナス幅が縮小、建設業、卸売・小売業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは △10(今期から6ポイント下降)

図5－(3) 地域別BSIの推移【道北】

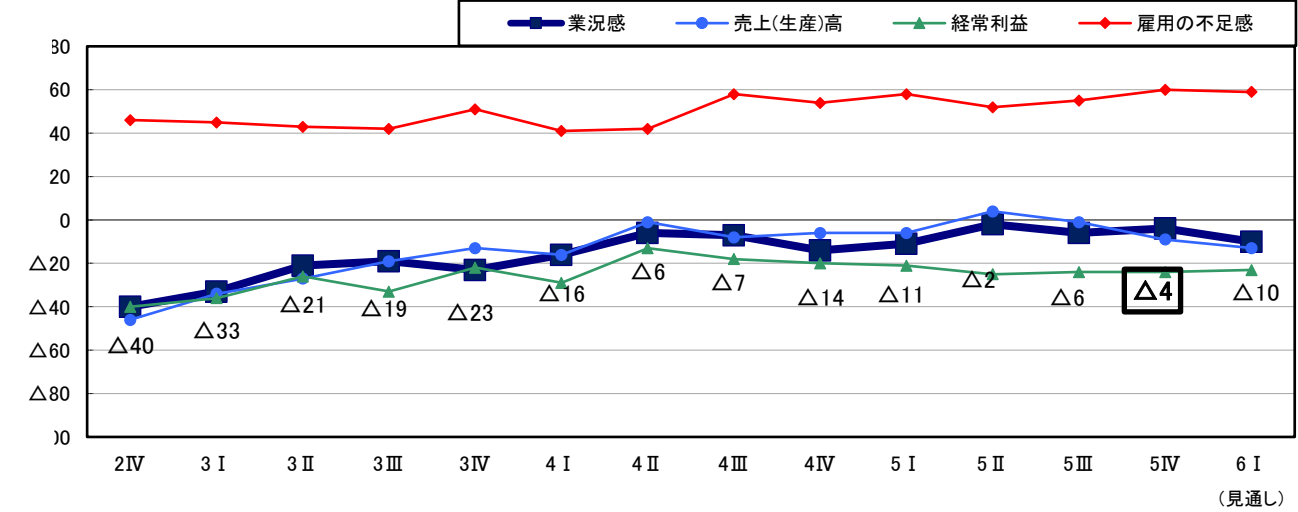


表5－(2)－② 地域別BSI【道北】

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 6	18	60	22	△ 4	2	12	66	22	△ 10	△ 6
	建設業	△ 7	12	64	24	△ 12	△ 5	12	70	18	△ 6	6
	製造業	△ 23	12	70	18	△ 6	17	12	64	24	△ 12	△ 6
	卸売・小売業	△ 7	11	39	50	△ 39	△ 32	6	61	33	△ 27	12
	運輸業	0	13	74	13	0	0	7	80	13	△ 6	△ 6
	サービス業	5	31	59	10	21	16	18	61	21	△ 3	△ 24
売上 (生産)高	全産業	△ 1	22	47	31	△ 9	△ 8	16	55	29	△ 13	△ 4
	建設業	△ 22	6	53	41	△ 35	△ 13	18	53	29	△ 11	24
	製造業	△ 11	24	52	24	0	11	18	47	35	△ 17	△ 17
	卸売・小売業	6	28	22	50	△ 22	△ 28	6	50	44	△ 38	△ 16
	運輸業	△ 9	27	40	33	△ 6	3	20	60	20	0	6
	サービス業	19	24	59	17	7	△ 12	18	61	21	△ 3	△ 10
経常利益	全産業	△ 24	21	34	45	△ 24	0	12	53	35	△ 23	1
	建設業	△ 29	18	17	65	△ 47	△ 18	12	47	41	△ 29	18
	製造業	△ 23	6	53	41	△ 35	△ 12	12	41	47	△ 35	0
	卸売・小売業	△ 19	22	17	61	△ 39	△ 20	6	55	39	△ 33	6
	運輸業	△ 37	33	34	33	0	37	20	60	20	0	0
	サービス業	△ 19	24	45	31	△ 7	12	11	60	29	△ 18	△ 11
雇用者の 不足感	全産業	55	63	34	3	60	5	61	37	2	59	△ 1
	建設業	71	76	18	6	70	△ 1	65	35	0	65	△ 5
	製造業	65	65	35	0	65	0	65	35	0	65	0
	卸売・小売業	50	56	44	0	56	6	56	44	0	56	0
	運輸業	45	67	33	0	67	22	67	33	0	67	0
	サービス業	45	55	38	7	48	3	57	36	7	50	2

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(4) オホーツク

今期の業況感BSIは △17(前期から10ポイント下降)

- 業種別にみると、卸売・小売業はプラスに転換、サービス業はプラス幅が縮小、建設業、運輸業はマイナスに転換、製造業はマイナス幅が縮小。

来期の業況感BSIは △19(今期から2ポイント下降)

図5－(4) 地域別BSIの推移【オホーツク】

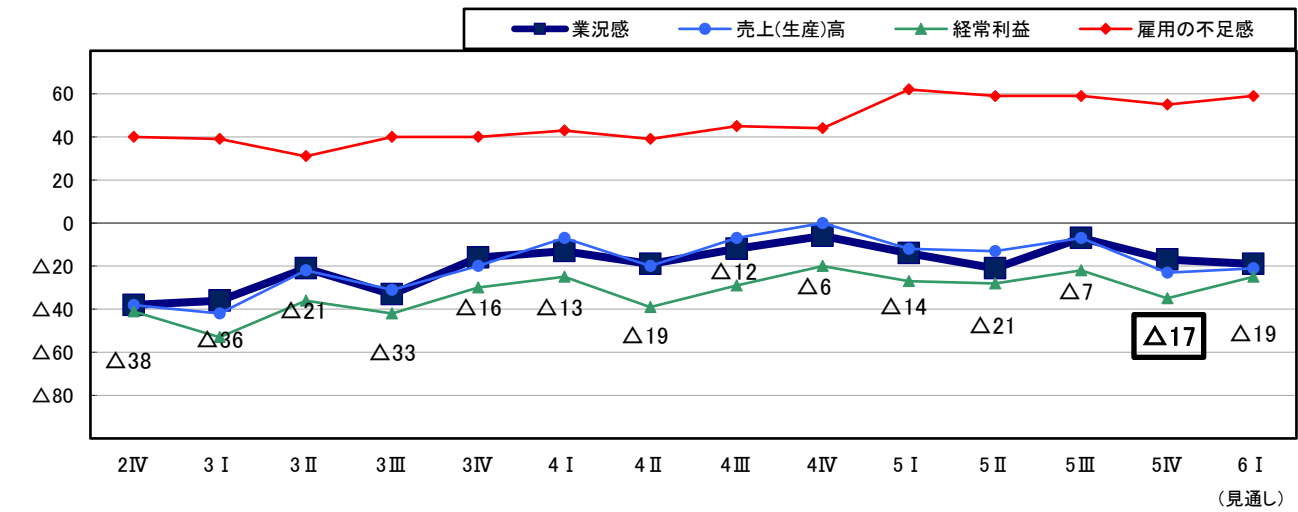


表5－(4) 地域別BSI(オホーツク)

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 7	14	55	31	△ 17	△ 10	10	61	29	△ 19	△ 2
	建設業	0	0	73	27	△ 27	△ 27	0	73	27	△ 27	0
	製造業	△ 67	9	46	45	△ 36	31	9	46	45	△ 36	0
	卸売・小売業	△ 33	29	57	14	15	48	0	86	14	△ 14	△ 29
	運輸業	0	10	60	30	△ 20	△ 20	10	60	30	△ 20	0
	サービス業	27	30	40	30	0	△ 27	30	50	20	10	10
売上 (生産)高	全産業	△ 7	14	49	37	△ 23	△ 16	10	59	31	△ 21	2
	建設業	△ 12	0	64	36	△ 36	△ 24	0	64	36	△ 36	0
	製造業	△ 67	9	36	55	△ 46	21	9	36	55	△ 46	0
	卸売・小売業	△ 16	29	57	14	15	31	0	86	14	△ 14	△ 29
	運輸業	0	20	40	40	△ 20	△ 20	10	70	20	△ 10	10
	サービス業	27	20	50	30	△ 10	△ 37	30	50	20	10	20
経常利益	全産業	△ 22	10	45	45	△ 35	△ 13	8	59	33	△ 25	10
	建設業	△ 25	0	45	55	△ 55	△ 30	0	64	36	△ 36	19
	製造業	△ 67	0	55	45	△ 45	22	18	37	45	△ 27	18
	卸売・小売業	△ 50	14	57	29	△ 15	35	0	86	14	△ 14	1
	運輸業	△ 30	10	40	50	△ 40	△ 10	10	60	30	△ 20	20
	サービス業	27	30	30	40	△ 10	△ 37	10	60	30	△ 20	△ 10
雇用者の 不足感	全産業	59	55	45	0	55	△ 4	59	41	0	59	4
	建設業	100	64	36	0	64	△ 36	64	36	0	64	0
	製造業	67	64	36	0	64	△ 3	64	36	0	64	0
	卸売・小売業	33	29	71	0	29	△ 4	29	71	0	29	0
	運輸業	50	70	30	0	70	20	80	20	0	80	10
	サービス業	45	40	60	0	40	△ 5	50	50	0	50	10

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(5) 十勝

今期の業況感BSIは △15(前期から13ポイント下降)

- 業種別にみると、サービス業はプラスに転換、運輸業はプラス幅が縮小、建設業はマイナスに転換、製造業はマイナス幅が縮小、卸売・小売業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは△17(今期から2ポイント下降)

図5－(5) 地域別BSIの推移【十勝】

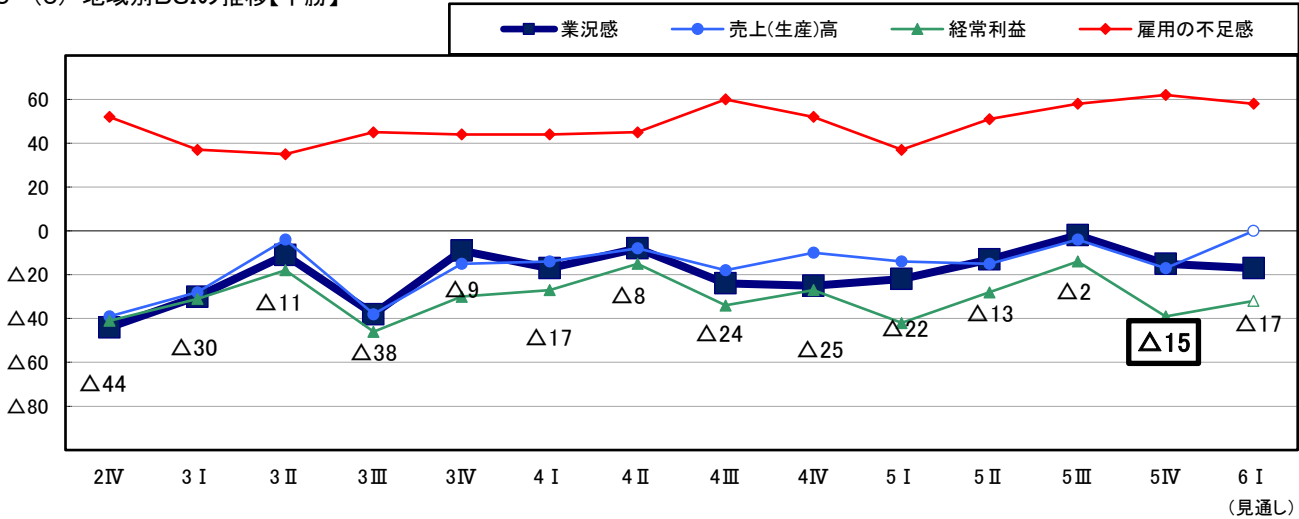


表5－(5) 地域別BSI(十勝)

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 2	15	55	30	△ 15	△ 13	10	63	27	△ 17	△ 2
	建設業	10	8	42	50	△ 42	△ 52	0	50	50	△ 50	△ 8
	製造業	△ 30	14	50	36	△ 22	8	7	50	43	△ 36	△ 14
	卸売・小売業	△ 8	10	60	30	△ 20	△ 12	0	90	10	△ 10	10
	運輸業	27	18	64	18	0	△ 27	18	73	9	9	9
	サービス業	△ 11	23	62	15	8	19	23	62	15	8	0
売上 (生産)高	全産業	△ 4	20	43	37	△ 17	△ 13	23	54	23	0	17
	建設業	△ 20	17	25	58	△ 41	△ 21	8	50	42	△ 34	7
	製造業	△ 20	21	43	36	△ 15	5	29	28	43	△ 14	1
	卸売・小売業	8	10	50	40	△ 30	△ 38	10	90	0	10	40
	運輸業	18	27	55	18	9	△ 9	36	55	9	27	18
	サービス業	△ 11	23	46	31	△ 8	3	31	54	15	16	24
経常利益	全産業	△ 14	8	45	47	△ 39	△ 25	10	48	42	△ 32	7
	建設業	△ 30	0	25	75	△ 75	△ 45	8	25	67	△ 59	16
	製造業	△ 30	0	57	43	△ 43	△ 13	7	43	50	△ 43	0
	卸売・小売業	0	10	40	50	△ 40	△ 40	0	70	30	△ 30	10
	運輸業	△ 9	9	64	27	△ 18	△ 9	9	64	27	△ 18	0
	サービス業	0	23	39	38	△ 15	△ 15	23	46	31	△ 8	7
雇用者の 不足感	全産業	58	62	38	0	62	4	60	38	2	58	△ 4
	建設業	80	83	17	0	83	3	83	9	8	75	△ 8
	製造業	30	36	64	0	36	6	36	64	0	36	0
	卸売・小売業	58	70	30	0	70	12	70	30	0	70	0
	運輸業	82	73	27	0	73	△ 9	73	27	0	73	0
	サービス業	33	54	46	0	54	21	46	54	0	46	△ 8

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(6) 釧路・根室

今期の業況感BSIは △14(前期から1ポイント上昇)

- 業種別にみると、運輸業は横ばい、建設業、サービス業はマイナス幅が縮小、製造業、卸売・小売業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは △16(今期から2ポイント下降)

図5－(6) 地域別BSIの推移【釧路・根室】

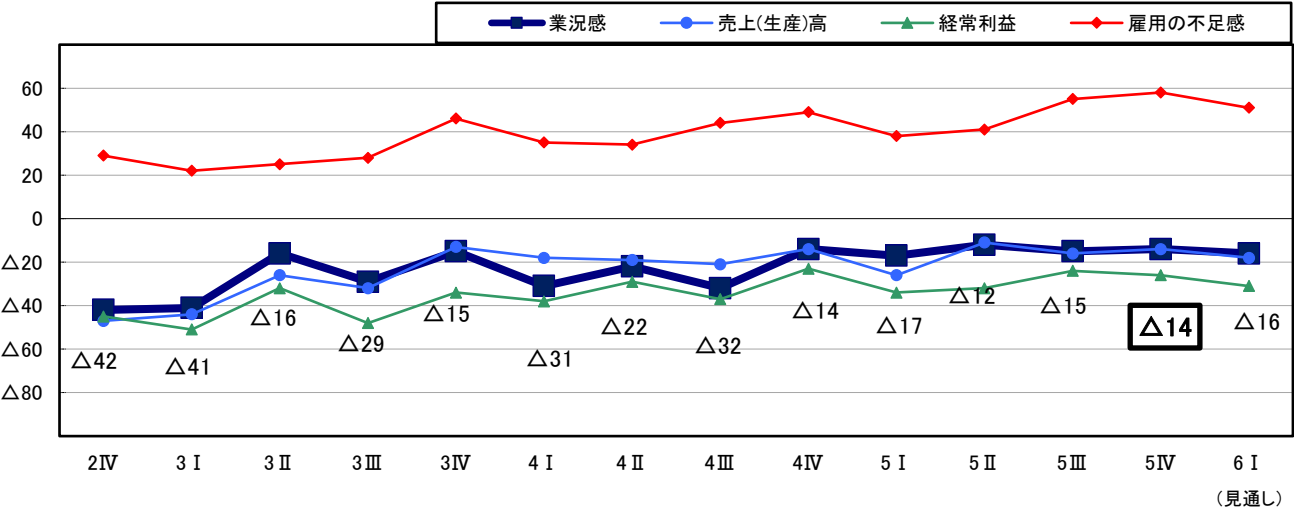


表5－(6) 地域別BSI(釧路・根室)

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 15	13	60	27	△ 14	1	9	66	25	△ 16	△ 2
	建設業	△ 30	0	82	18	△ 18	12	0	73	27	△ 27	△ 9
	製造業	△ 25	15	39	46	△ 31	△ 6	15	47	38	△ 23	8
	卸売・小売業	△ 11	0	83	17	△ 17	△ 6	0	83	17	△ 17	0
	運輸業	0	17	66	17	0	0	17	66	17	0	0
	サービス業	△ 9	23	46	31	△ 8	1	8	69	23	△ 15	△ 7
売上 (生産)高	全産業	△ 16	15	56	29	△ 14	2	7	68	25	△ 18	△ 4
	建設業	△ 40	9	64	27	△ 18	22	0	73	27	△ 27	△ 9
	製造業	0	15	39	46	△ 31	△ 31	8	46	46	△ 38	△ 7
	卸売・小売業	0	0	83	17	△ 17	△ 17	0	83	17	△ 17	0
	運輸業	△ 18	17	66	17	0	18	17	66	17	0	0
	サービス業	△ 25	23	46	31	△ 8	17	8	77	15	△ 7	1
経常利益	全産業	△ 24	9	56	35	△ 26	△ 2	4	61	35	△ 31	△ 5
	建設業	△ 30	0	73	27	△ 27	3	0	64	36	△ 36	△ 9
	製造業	△ 33	15	39	46	△ 31	2	8	46	46	△ 38	△ 7
	卸売・小売業	△ 33	0	67	33	△ 33	0	0	83	17	△ 17	16
	運輸業	△ 9	0	67	33	△ 33	△ 24	0	67	33	△ 33	0
	サービス業	△ 17	23	46	31	△ 8	9	8	61	31	△ 23	△ 15
雇用者の 不足感	全産業	55	58	42	0	58	3	51	49	0	51	△ 7
	建設業	70	55	45	0	55	△ 15	55	45	0	55	0
	製造業	50	69	31	0	69	19	54	46	0	54	△ 15
	卸売・小売業	33	50	50	0	50	17	50	50	0	50	0
	運輸業	73	67	33	0	67	△ 6	67	33	0	67	0
	サービス業	50	46	54	0	46	△ 4	31	69	0	31	△ 15

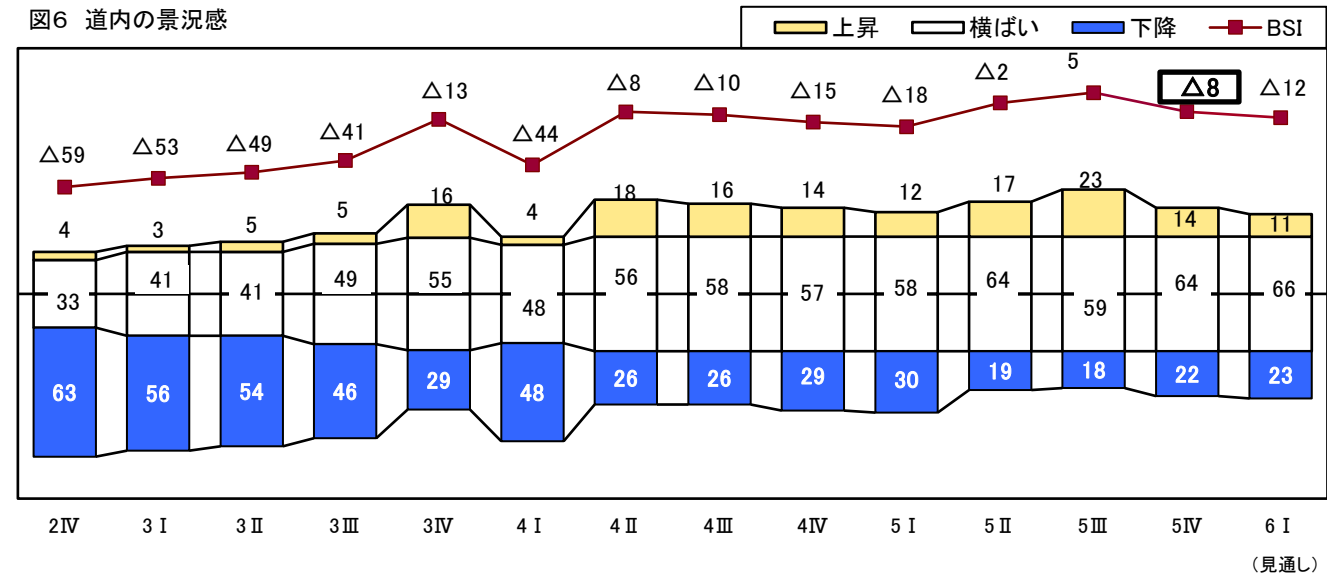
※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

6 道内の景況感

今期の道内の景況感BSIは△8(前期から13ポイント下降)

- 業種別でみると、建設業、運輸業、サービス業はマイナスに転換、製造業、卸売・小売業はマイナス幅が拡大。
- 地域別でみると、道央はプラス幅が縮小、道南、道北、釧路・根室はマイナスに転換、オホーツクはマイナス幅が縮小、十勝はマイナス幅が拡大。

来期の道内の景況感BSIは△12(今期から4ポイント下降)



※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

表6 道内の景況感(業種・資本金・地域別)

区分		R5年 7-9月 実績	R5年10-12月実績					R6年1-3月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
総 計		5	14	64	22	△ 8	△ 13	11	66	23	△ 12	△ 4
	札幌市を除く	△ 1	14	62	24	△ 10	△ 9	10	65	25	△ 15	△ 5
	札幌市	21	13	73	14	△ 1	△ 22	13	72	15	△ 2	△ 1
業 種	建設業	7	9	69	22	△ 13	△ 20	9	72	19	△ 10	3
	製造業	△ 7	10	70	20	△ 10	△ 3	8	68	24	△ 16	△ 6
	卸売・小売業	△ 3	15	58	27	△ 12	△ 9	12	57	31	△ 19	△ 7
	運輸業	1	16	64	20	△ 4	△ 5	10	67	23	△ 13	△ 9
	サービス業	17	18	62	20	△ 2	△ 19	13	68	19	△ 6	△ 4
資 本 金	5千万円未満	△ 4	12	61	27	△ 15	△ 11	9	63	28	△ 19	△ 4
	5千万円以上～1億円未満	18	18	69	13	5	△ 13	12	74	14	△ 2	△ 7
	1億円以上	24	18	74	8	10	△ 14	17	75	8	9	△ 1
地 域	道南	3	14	63	23	△ 9	△ 12	8	63	29	△ 21	△ 12
	道央	12	17	68	15	2	△ 10	14	69	17	△ 3	△ 5
	札幌市を除く	1	19	63	18	1	0	16	63	21	△ 5	△ 6
	札幌市	21	13	73	14	△ 1	△ 22	13	72	15	△ 2	△ 1
	道北	1	16	58	26	△ 10	△ 11	11	63	26	△ 15	△ 5
	オホーツク	△ 9	14	66	20	△ 6	3	6	74	20	△ 14	△ 8
	十勝	△ 8	8	59	33	△ 25	△ 17	8	60	32	△ 24	1
	釧路・根室	2	5	68	27	△ 22	△ 24	4	69	27	△ 23	△ 1

7 業種・地域別企業経営者の声(令和5年 10－12 月)

【建設業】

道 央	・ 原材料、人件費、燃料費等の高騰により利益確保が難しい。(建設業) ・ 人手不足で工事の工期が遅れる。結局、追加で人を派遣しなければならないため、コストもかかり効率が悪い。(建設業)
道 北	・ 来年度の新築物件の仕込み時期であるものの、住宅価格の高騰・金利上昇及び物価高による実質賃金減少等により、新築ニーズが減少。(建設業) ・ 注文住宅の受注減は建設業界全体が直面している課題であり、DM 送付、SNS による情報発信、見学会の開催など手を打っているが、思うように顧客獲得に至っておらず、受注契約数は前年ペースを下回っており、業況は厳しい状況が続いている。足元の資金繰りに問題はないものの、減収が続くと今後資金不足の発生が懸念される。(建設業) ・ 原材料費価格が上がっているのに、工事費が上がらないため利益がでない。(建設業)
オホーツク	・ 採用後にトラック運転に必要な免許を取得させていたが、取得後に辞められてしまうことがあり、人手不足が解消しない。(建設業) ・ 工事の発注や骨材の需要が増加したことにより売上は上がっているものの、燃料費の高騰により利益は減少している。(建設業)
十 勝	・ 新築住宅の着工件数が激減しており、業況への影響が大きい。人手不足だが、採用が全然出来ない。(建設業)

【製造業】

道 南	・ スルメ加工は近海マイカの原因不足から輸入原魚で稼働したが、調達が不安定な状況のため売上高は前年同期比の横這いからやや減少で推移。ウニ加工は原料価格が高値するも、価格転嫁ができたため、売上高はやや増加。(水産加工業) ・ 作付面積は法人設立時から2倍近くとなっており、設備投資も行い、来年は倉庫も建設する予定。(食料品製造業)。 ・ グリーン材や乾燥材は、新築住宅着工数の伸び悩みから売上高は前年同期比でやや減少。梱包材、集成材、木材チップの売上高は前年同期比で横這い。(木材製造業)
道 央	・ 北米産のニシンの原料価格が高騰しており、北米産ニシン、数の子を取り扱う加工業者の収益が厳しくなっている。(水産加工業) ・ 中国の高級スーパーと取引開始となる予定だったが、輸入禁止措置の影響で保留となってしまった。(水産加工業) ・ ホタテフライの製造を行っているが、中国の規制の影響で、余っているホタテを売れないかと言う打診があった。しかし、殻付きホタテを冷凍ブロックにした状態では、加工に手間がかかるので対応できなかった。(水産加工業) ・ 冷蔵、冷凍倉庫は電気代高騰の影響が大きく、10年前は約700万円だったが現在は約1,300万円に上昇しており、収益を圧迫している。(水産加工業) ・ 冷凍保管倉庫料については喫緊の課題となっており、現在保管しているオオズワイガニ、宗八カレイ、ニシンは、中国の禁輸措置によって売り先が無くなり、保管が長引くほど損失が増えてしまう。東電の賠償について詳細が分からないため、廃棄するか、国内向けに売り切った方が良いか判断できない状態。(水産加工業) ・ ニセコ地域のホテルの賃金が高いため、労働力がそちらに流れてしまっている。(水産加工業) ・ 外国人技能実習生3～4名を常時使って人手不足を補っているが、滞在期間が1年のため、仕事に慣れてきた頃に帰国するので、毎年イチから教えることになり大変である。(木材加工業) ・ パートについては、70代を超えた従業員もいる。外国人技能実習生は50名。社員募集も毎年しているが、応募がない。(水産加工業)

	・やぎミルクが注目されるようになったため、昨年より粉末状パウダーの生産が増加しているが、配合飼料の価格高騰や、冷凍庫の電気代高騰が懸念。(乳製品加工場) ・輸出に力を入れていきたいが、海外のスタンダードやレギュレーションがわからないことや、商品の賞味期限が海外向けにしては短いことなど課題が多い。(食料品製造業)
道北	・ホタテ消費拡大の呼びかけのお陰で、主にふるさと納税で売上は確保出来ている。(水産加工業) ・ウクライナ情勢に起因する石炭価格上昇の影響で、塩が昨年からキロあたり 10 円以上値上がりしており、経営を圧迫している。(水産加工業) ・現場の作業員は約 40 名で、そのうち半分程度が外国人技能実習生である。加工現場の作業員は慢性的に不足しており、水揚げした分の全ての加工作業に対応できない状況。(水産加工業) ・春に、商品価格を大幅にアップして、一時的に販売が落ちた。(家具製造業)
オホーツク	・産直の卸売りをを行っているが鮮度が重要であり、1 社だけでは航空便の手配が厳しく非常に苦しい状況が続いている。(水産加工業) ・印刷用紙などの資材価格が上昇しており、特に印刷用機械に使用するアルミ板の価格が、昨年と比較し倍以上となっている。価格転嫁しなければ厳しいが、小売価格が上げれば取引が少なくなるため価格転嫁はしづらい状況。(印刷業)
十勝	・魚油はほぼ 100%が海外向けで、食品原料、医薬品原料としての付加価値をつけての販売、魚粉は主に国内向けの飼料として販売しているが、気候変動の影響で資源量の激減が予想されたため、価格が国際マーケットで高止まりしており、当社業績の追い風になっている。(食料品製造業) ・原材料、包装資材、人件費など軒並み上がっていることから、価格転嫁も一部行っているが、全て転嫁すると消費者が離れてしまうため、値付けが難しい。(食料品製造業)
釧路・根室	・ALPS 処理水放出の影響で、中国へ出荷予定であった製品が出荷出来なくなり、現在も輸出用の製品は止まっている。(水産加工業) ・サケやカレイ、スケトウタラ、キンキなどの魚を輸出業者に卸しているが、今のところ ALPS 処理水放出の直接的な影響はないものの、各業者の在庫が飽和状態となっているため、今後、価格下落の懸念がある。(水産加工業) ・中国税関の放射能検査がより厳しくなり、結果として、船やコンテナの港での待機時間が長くなり関連経費が上昇した。(水産加工業) ・とにかく人手が足りない。外国人技能実習生だけでは工場は稼働できないので、どうしても日本人の働き手が必要だが、従業員は高齢化が進み、人手不足が原因で倒産にもなりかねない状況。(水産加工業) ・人手不足が一番の課題となっており、それを補うために設備投資でカバーしていかなければならないが、今対応している魚種や新しい魚種も今後も継続して獲れるとは限らず、販路確保の問題もあり、新たに投資に踏み切ることが難しい。(水産加工業) ・役場が実施した、旅をしながら短期間働きたい人を紹介する人材マッチングサービスを活用し、2 名を雇用した。(水産加工業)

【卸売・小売業】

道南	・現在の主要業務は町から受託しているふるさと納税返礼品の作業。10 月からの制度変更に伴う、駆け込み需要が多かった。(小売業) ・コロナ 5 類移行により地域イベントが開催されるようになり、観光客等の入込増加に伴う需要増加や地域商品券利用効果により売上が増加した地域と、地元消費の停滞から売上が横ばいだった地域とばらつきが見受けられた。(小売業) ・人手不足でピザを焼ける調理人が 1 人しかいないので、ピザの提供日を限定している。(小売業)
道央	・市場から水産物を買付け、加工等を行い各量販店や商社に卸しているが、中国の禁輸措置による影響はまだ無いものの、ホタテの浜値が 1,000 円下げとなっていると聞いており、今後、何かしらの影響はあるものと考えている。(卸売業)

道北	・鳥インフルエンザの影響により、鳥の入荷が年25万羽ほど減少し、生産が15～20%ほど落ち込んでいる。(卸売業) ・エビの漁獲高は一時期に比べて持ち直したが、まだ少ない状況。タラは水揚げが急激に増えて値崩れをおこし、市場でも対応に苦慮している。(卸売業) ・販売機会を逃したくないので催事などには多めに商品を持って行くが、売れ残ると返送費が数万円かかることもあり苦慮している。(小売業)
オホーツク	・イベントの自粛や縮小がなくなり、煙火の売上が増加している。ただ、発注元からの予算は増えているものの、煙火の単価も上がっており、花火の打揚数をそれほど増やせていない。冬季も煙火の消費は増加する見込みだが、火薬の価格上昇や運送コスト上昇について、販売先の理解が得られるかを懸念。(小売業) ・原料の高騰により石油やLPガスの需要が減少し、売上は減少している。さらに、メーカーからの仕入価格は上昇傾向にあるため、販売価格との調整が難しく利益幅を縮小して対応している。(小売業) ・人手不足であるものの職員の休日を確保するため、平日にスタンドを閉める必要に迫られている。(小売業) ・ホタテ消費ムードのお陰で、ふるさと納税などで何とか売上も確保出来ている様子。(商工会)
十勝	・秋サケが不漁で漁獲量は前年比5割減、漁獲金額は6割減。(卸売業) ・海水温の上昇などにより魚種が変わり、スルメが取れなくなっていることから、計画通りの仕入れが出来ていない。燃料代、物流費、人件費などが高騰している一方、価格転嫁が思うように進まないため利益率は減少。(卸売業)

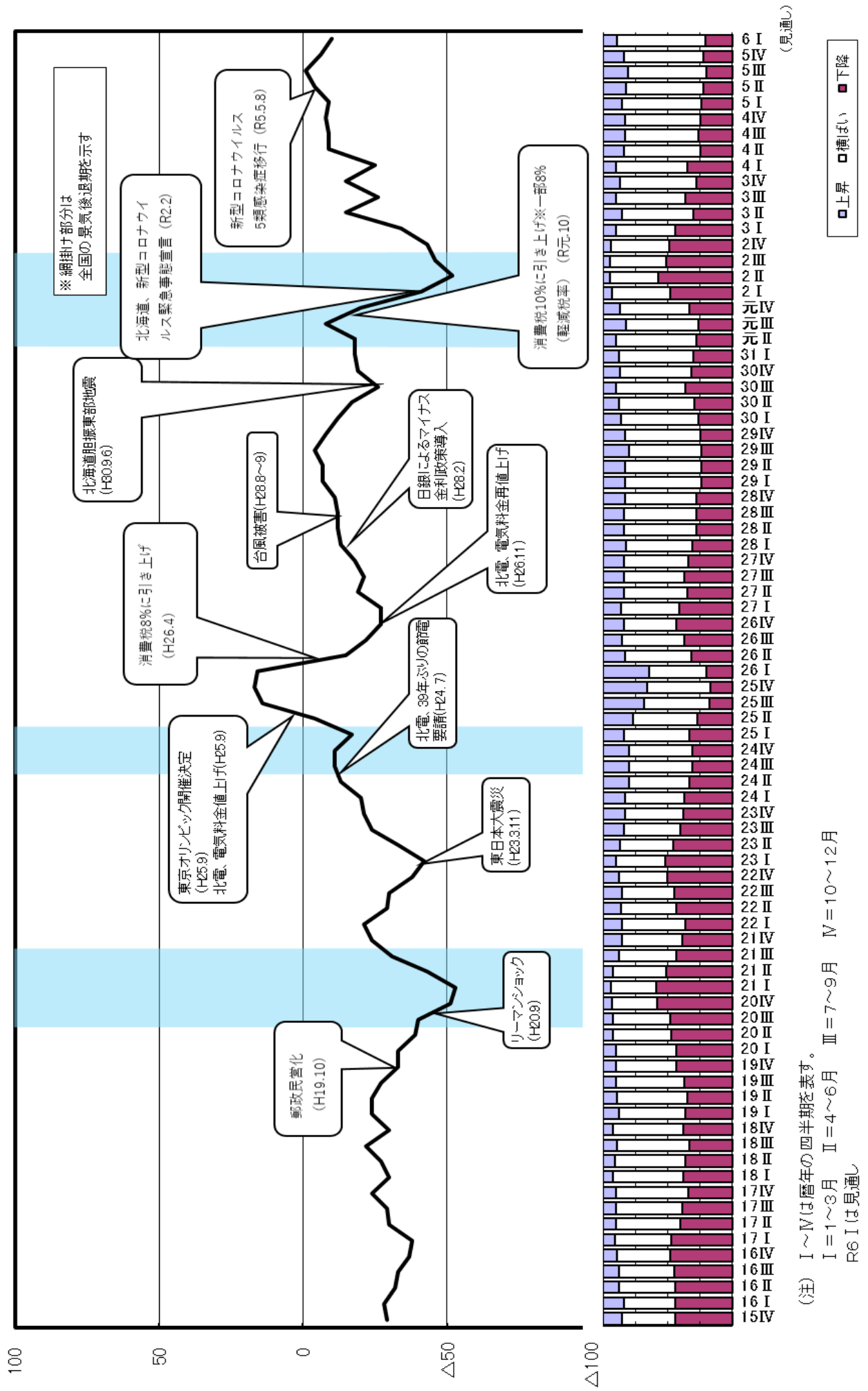
【運輸業】

道南	・燃料費・資材価格の上昇により、厳しい経営状態が続いている。(道路旅客運送業)
道央	・貸切バスの稼働台数が減少したことで、全体の総収入は若干のマイナスとなったが、台数あたりの収入は上がった。(道路旅客運送業) ・燃料費の単価は上がっているが、全体の燃料費は貸切バスの稼働台数の減少により下がっている。(道路旅客運送業) ・乗合バスの収入はほぼ横ばいだが、貸切バスは観光客の需要増かつ全国的な貸切バスの不足もあり、日車単価が上がっている。(道路旅客運送業) ・運転手が常時2～3名不足してるので、内勤運行管理者が乗務することで補っている。運転手の定着率は高いが、高齢化が進んでいる。(道路旅客運送業)
道北	・観光関連需要含めコロナ禍から回復状況で推移してきたものの、燃料高をはじめとするコスト高と人手不足が収支回復の足を引っ張っている。(道路貨物運送業) ・配車アプリを導入したことで、外国人観光客を多く獲得できている。また、女性の働きやすい職場を目指し、専用更衣室や休憩室などを設けているほか、未経験者は全額会社負担で免許取得ができる制度を取り入れている。その他、入社に当たっての準備金を支給している。(道路旅客運送業)
オホーツク	・町内のタクシー会社は、ドライバー不足により車輛の運行に苦慮している。(商工会議所)
十勝	・売上は回復基調にあるが、コストも上昇しており、収益環境は厳しい状況が続いている。人手不足も慢性的であり、人員の確保と定着化が課題。(道路旅客運送業)
釧路・根室	・普通免許取得から3年経った人材を採用条件としているため、高校新卒は採用していない。地方からIターンで来る人材もいるが、中には、単身赴任をいやがり結局辞めてしまうこともある。(道路旅客運送業) ・人手不足に対応するため、定年を65歳まで引き上げ、70歳まで再雇用する仕組みを作った。またその間も労働組合に加入できるようにしている。(道路旅客運送業)

【サービス業】

道 南	・ 自社商品の販路拡大のため、物産展や商談会に積極的に出展したいが、スタッフの人員が限られており、なかなか出展できない。(飲食店)
道 央	・ 民泊事業による売上は中国観光客によるものがほとんどであったが、5月から予約が減少しはじめ8月のALPS処理水の海洋放出後は予約ゼロとなった。(宿泊業) ・ グランピングはコロナ禍の方が利用者が多く、今年の利用率は去年の6割程度。(宿泊業) ・ 観光船は多忙であるが、操縦士が不足している。(観光協会) ・ 訪問介護や訪問理美容、客室清掃等の事業を展開してきたが、離職率が高い業種である上、訪問介護・理美容は有資格者でないとサービスを提供できない等、従業員の雇用が安定せず、利用者の受入が難しい状況が続いている。(生活関連サービス業) ・ 自動車整備に係る材料費は部品代として価格転嫁は順次行っており、整備料についても値上げを行ったが、価格転嫁について顧客が納得してくれており、顧客離れは起きていない。(自動車整備業)
道 北	・ 冬期間の客室の稼働率はほぼ4割程度で、出張者などのビジネス利用が多く、土日より平日の方が高い。(宿泊業) ・ 客数はコロナ禍前にほぼ戻ってきているが、暖房やボイラーに使う原油や電気代の高騰とともに食材費の高騰も大きく、採算を取るのには厳しい。(宿泊業) ・ 慢性的に人手は不足しており、客室がフル稼働しているため、大宴会場に予約が入ると他の中小の部屋の宴会の予約を取らないことで対応している。(宿泊業) ・ 人手不足はコロナ禍前から問題となっており、募集しても応募はなく、繁忙期はフロント、レストラン、清掃などどの部門でも人手が不足している。人手はもちろん欲しいが、冬期は宿泊客が大きく減少するので、逆に人手が余るのではという心配もある。(宿泊業)
オホーツク	・ 民泊を行っているが、コロナ5類移行で長期滞在者が増え、売上が増加した。2月の流水シーズンはすでに部屋数の半分近くの予約が入っているが、ほぼインバウンド客という状況。(宿泊業) ・ 1次会の利用に留まっており、20時以降はガラガラという飲食店が多い。街に人が戻ったかのように見えるが、思ったほど売上に繋がっていないとのことである。(金融機関) ・ 回転寿司店では、原材料は確保できている反面、人材不足が大きな問題となっており、人のシフト繰りに苦慮していると聞いている。(金融機関) ・ 大きなホテル等では受付の無人化などが進んでいるが、客室清掃の人員確保が難しく、部屋の稼働率を下げたり、遅い時間のチェックインを推奨するなど対応に苦慮しているという話を聞いている。(金融機関) ・ 観光客の入込状況としては、遊覧船事故の影響からPRに苦慮しており、コロナ禍前と比較して7割弱となっている。インバウンドはコロナ禍前と比較し、9割程度まで回復している。(商工会議所)
釧路・根室	・ 11月以降は、製薬会社や漁連関係等のビジネス客が中心となっており、客室は、平日はほぼ埋まっているが、土日は空室が見られる。(宿泊業) ・ 宿泊客数はコロナ禍前の水準に戻っている。現在は観光シーズンではないため、ビジネス客の利用が多い傾向。外国人観光客は週に2～3組程度宿泊しており、台湾や香港からの宿泊客が多い。宴会はコロナ禍前には戻っていない。(宿泊業) ・ 人手不足は相変わらず深刻で、フロア係も足りないため、夜の食事提供は現在行っていない。(宿泊業) ・ 人手不足のほか、人件費や材料費価格も上昇していることから、忘年会や新年会等の宴会は採算が取れないため、現在は行っていない。(宿泊業)

8 業況感の長期推移

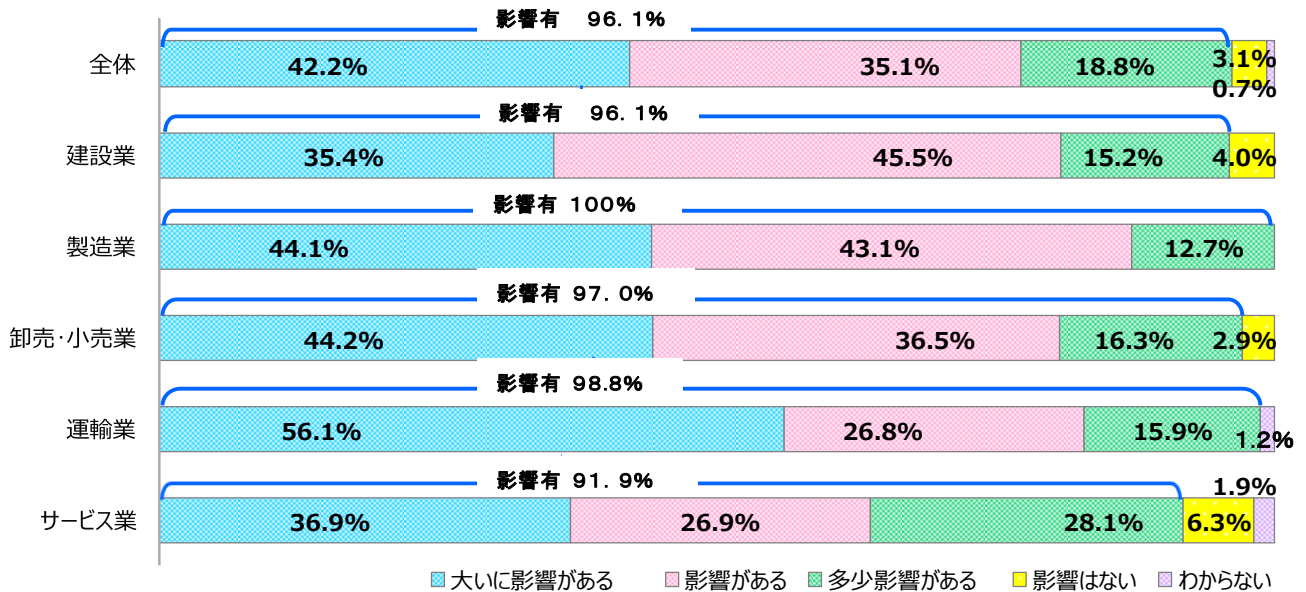


1 原油・原材料価格高騰の影響について

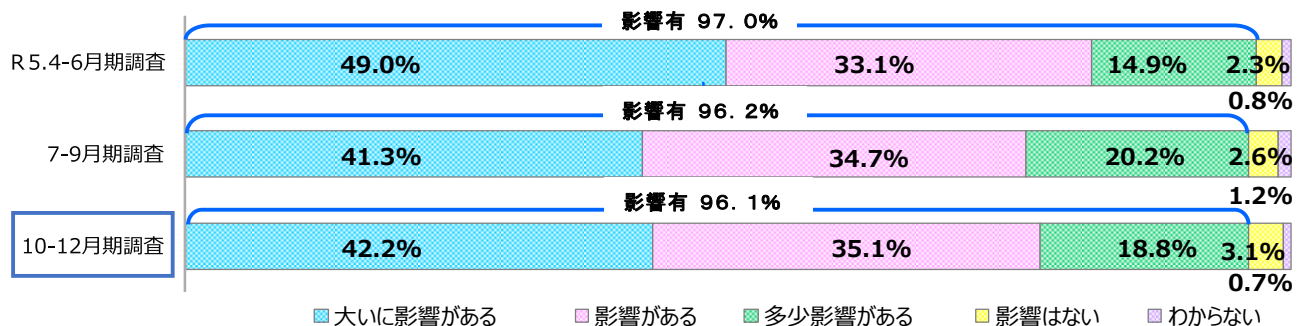
(1) 経営への影響

原油・原材料価格高騰の経営への影響について、全体では「大いに影響がある」と回答した企業の割合が42.2%と最も大きく、「影響がある」(35.1%)と「多少影響がある」(18.8)%を合わせた96.1%の企業が「影響がある」と回答。

業種別では、「影響がある」と回答した企業の割合は、製造業が100%と最も高く、最も低いサービス業でも91.9%となっており、すべての業種で高い割合。

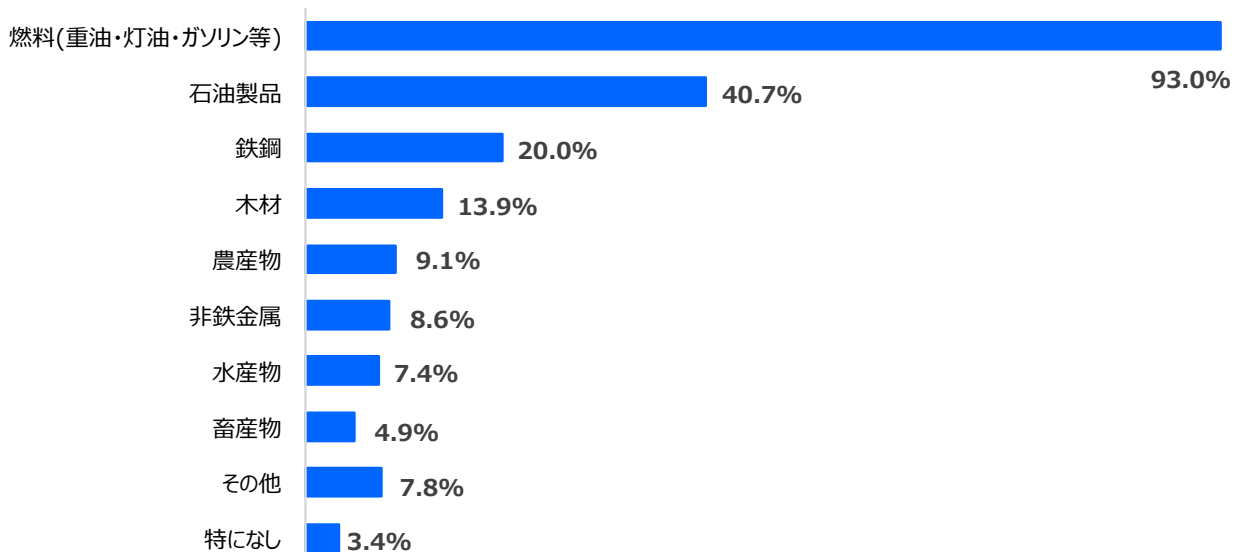


調査開始以降、「大いに影響がある」「影響がある」「多少影響がある」を合わせた「影響がある」と回答した企業の割合は、9割を超える高い水準で推移。



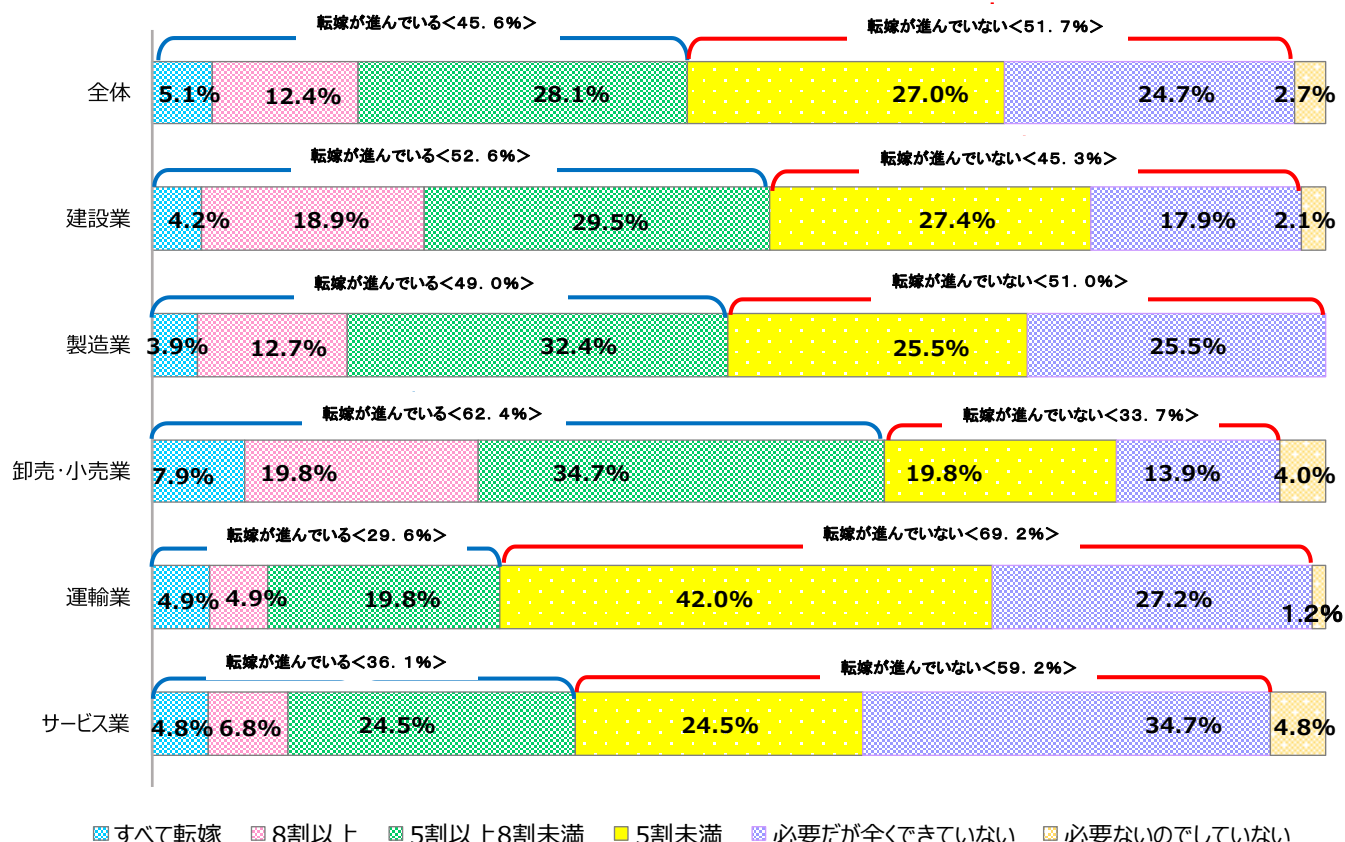
(2) 経営に影響を与えている品目 (複数回答)

経営に影響を与えている品目について、最も多かった回答は、「燃料(重油・灯油・ガソリン等)」の93.0%で、次いで「石油製品」(40.7%)、「鉄鋼」(20.0%)が続く。

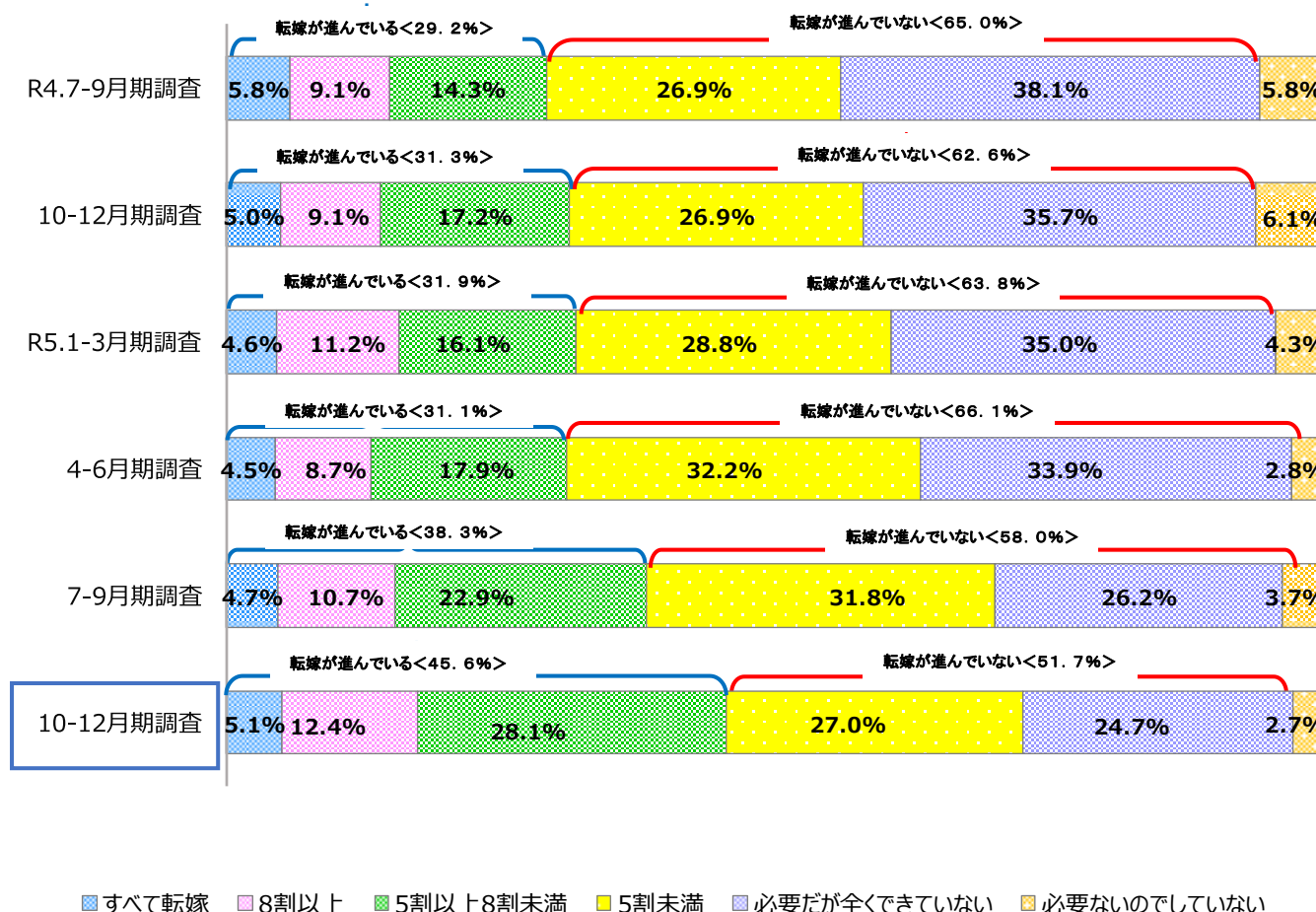


(3) 価格転嫁の状況

全体では、『価格転嫁が進んでいない』（「5割未満」及び「必要だが全くできていない」）企業の割合は51.7%。特に、運輸業（69.2%）、サービス業（59.2%）では、価格転嫁が進んでいない割合が高く、依然として、業種間の格差がみられる。

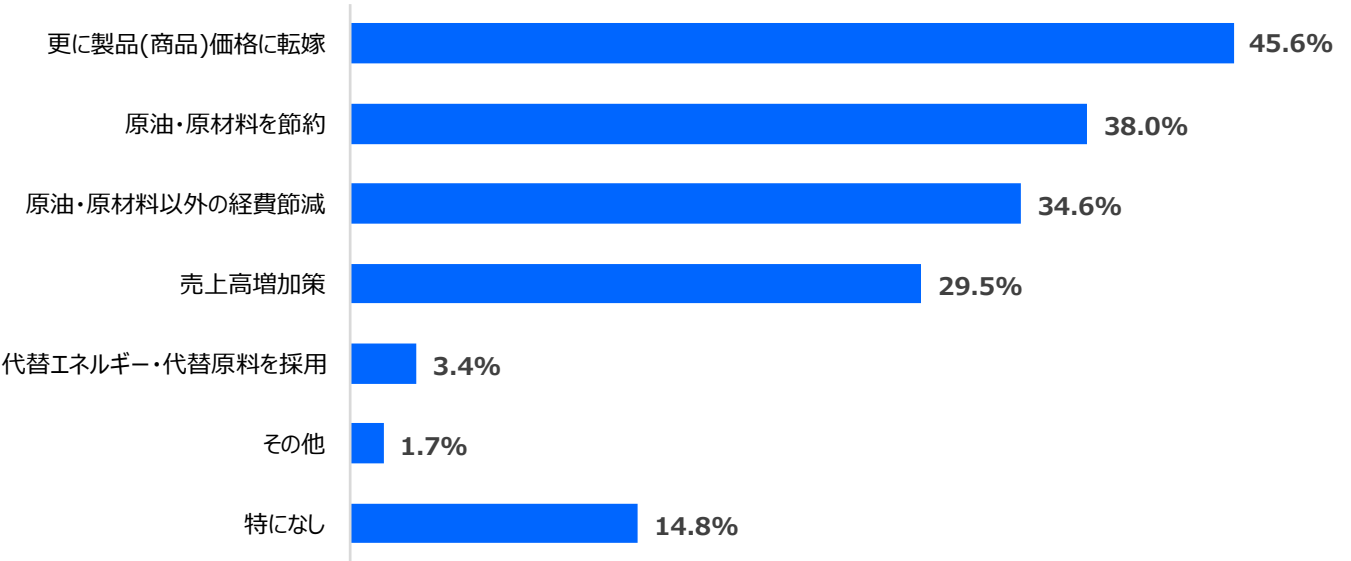


『価格転嫁が進んでいない』企業の割合は、調査開始以降、減少傾向にあり、徐々にではあるが価格転嫁が進んでいるものの、依然として5割存在しており、厳しい状況にある。



(4) 経営への影響緩和対策（複数回答）

経営への影響緩和について、最も多かった回答は、「更に製品（商品）価格に転嫁」の45.6%で、次いで「原油・原材料を節約」（38.0%）、「原油・原材料以外の経費節減」（34.6%）が続く。



2 省エネルギー対策の状況について

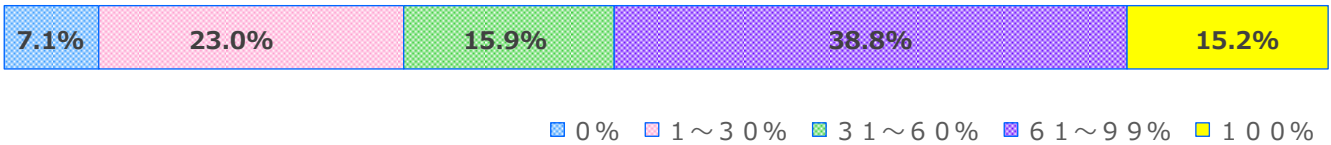
(1) 照明設備のLED化を行うタイミング

照明設備のLED化について、最も多かった回答は、「既に交換済み」の54.3%で、次いで「照明器具の交換時」（27.6%）、「蛍光灯や電球の交換時」（11.9%）が続く。



(2) 照明設備のLED化の割合

LED化の割合について、最も多かった回答は、「61～99%」の38.8%で、次いで「1～30%」（23.0%）が続く。

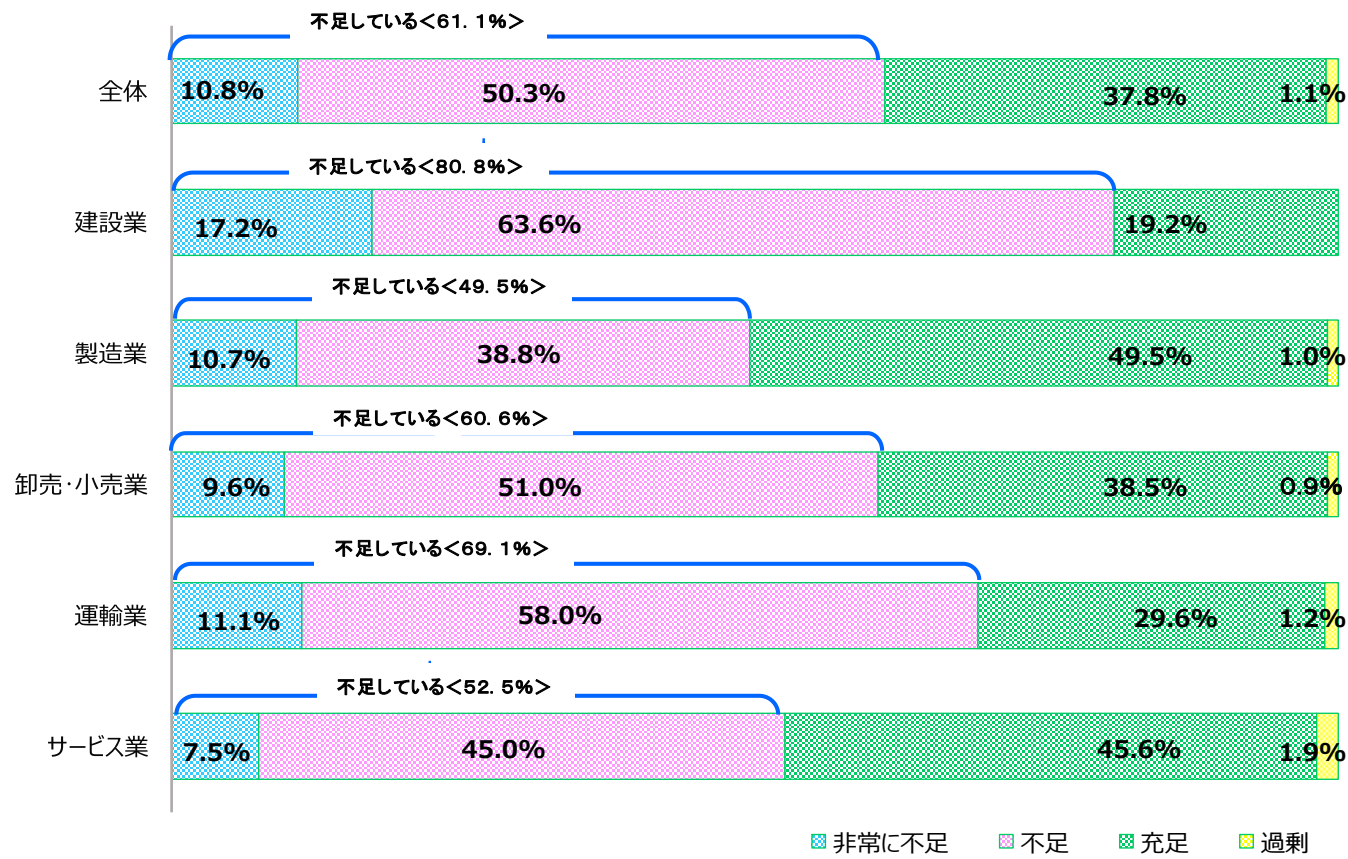


3 人手不足の状況について

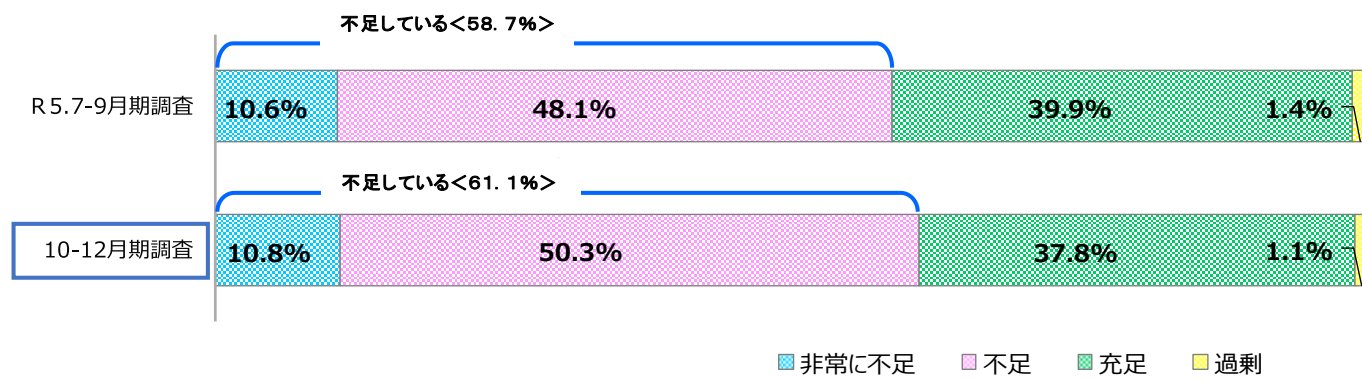
(1) 正規従業員の充足の度合い

正規従業員の充足度合いについて、全体では「非常に不足」(10.8%)と「不足」(50.3%)を合わせた61.1%の企業が「不足している」と回答。

業種別では、「不足している」と回答した企業の割合は、建設業(80.8%)が最も高く、次いで運輸業(69.1%)が続く。



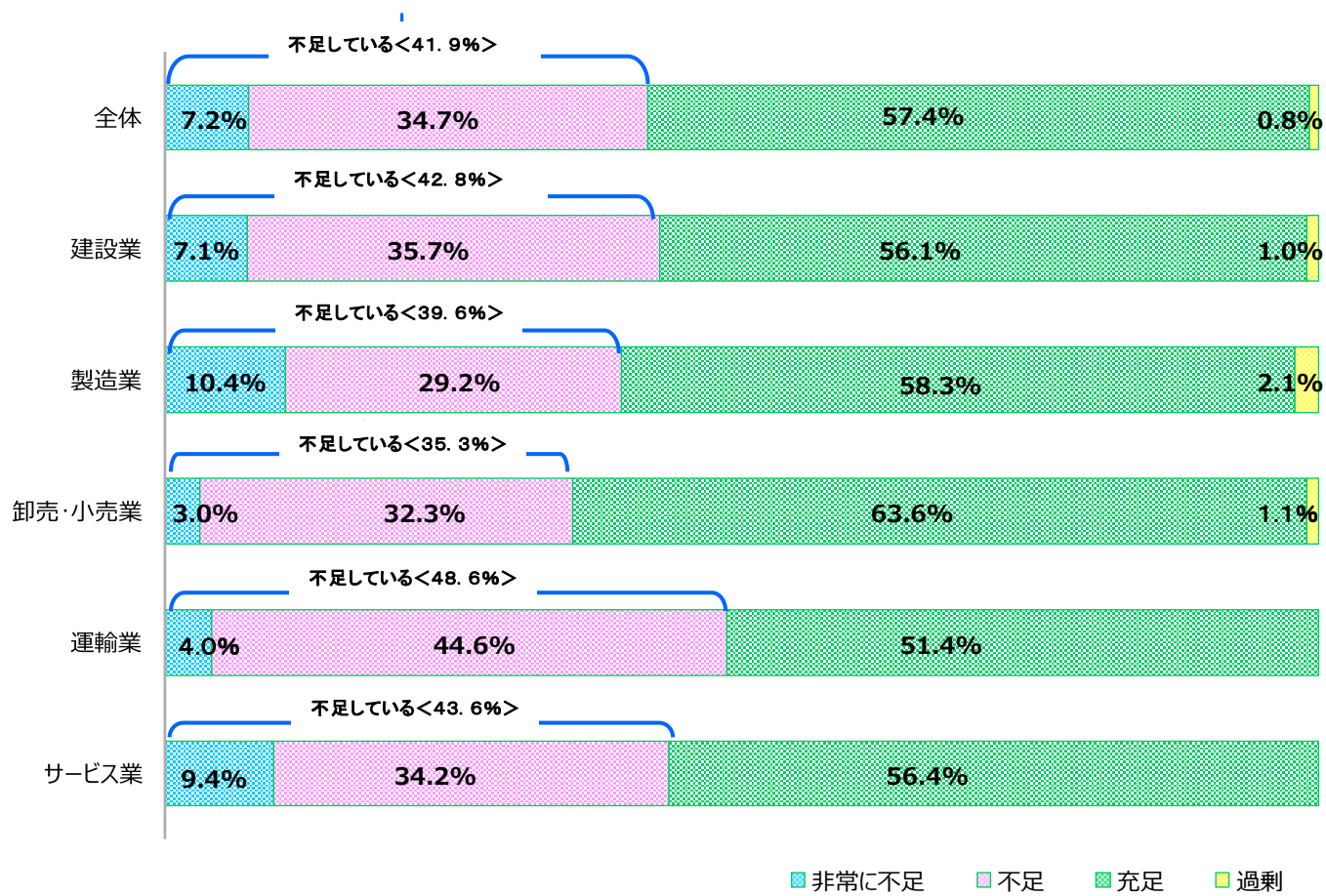
「非常に不足」「不足」と回答した企業の割合は、前回調査から2.4ポイント拡大し、不足感が強い状況が続いている。



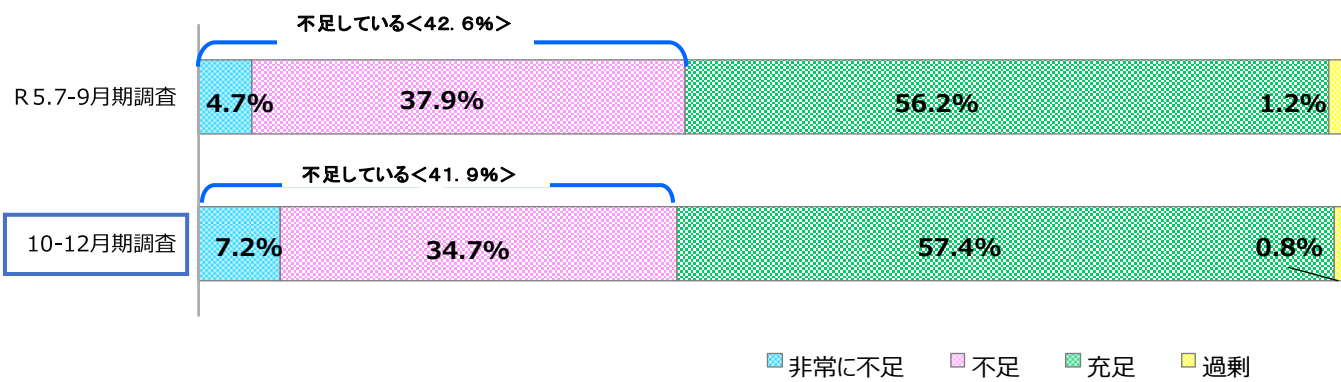
(2) 非正規従業員の充足の度合い

非正規従業員の充足度合いについて、全体では「非常に不足」(7.2%)と「不足」(34.7%)を合わせた41.9%の企業が「不足している」と回答。

業種別では、「不足している」と回答した企業の割合は、運輸業(48.6%)が最も高く、次いでサービス業(43.6%)、建設業(42.8%)が続く。



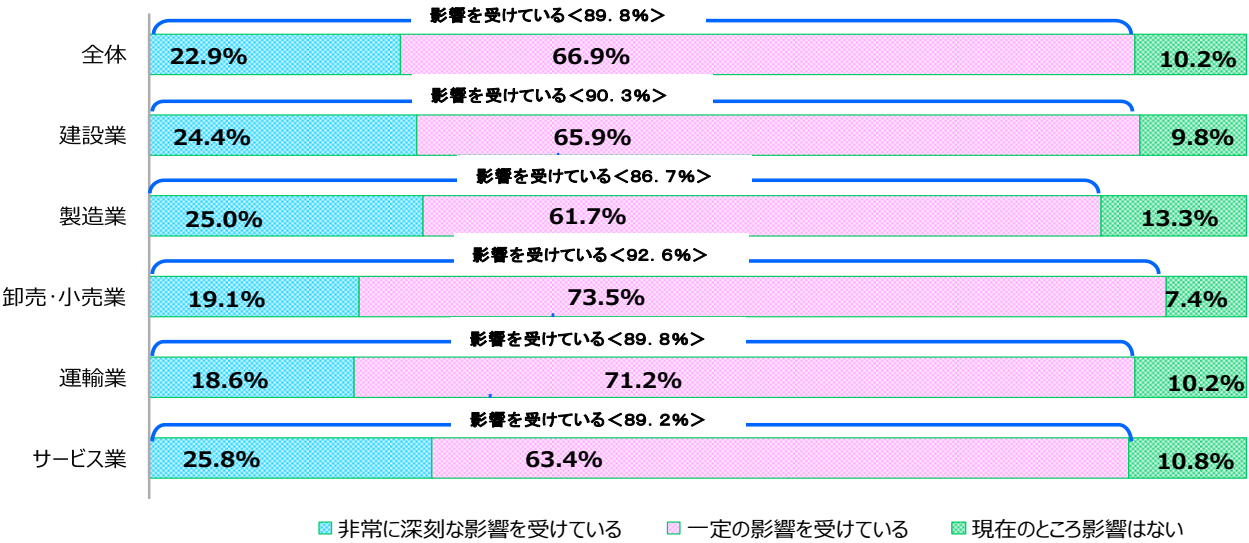
「非常に不足」「不足」と回答した企業の割合は、前回調査から0.7ポイント縮小し、若干ではあるが、不足感が緩和。



（３）人手不足の影響の程度

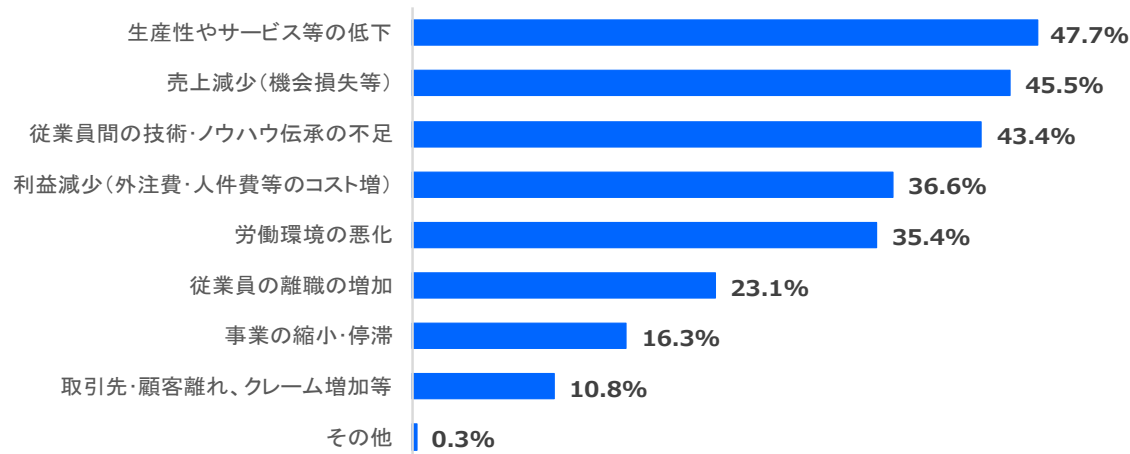
人手不足の影響について、全体では「非常に深刻な影響を受けている」（22.9%）と「一定の影響を受けている」（66.9%）を合わせた89.8%の企業が「影響を受けている」と回答。

業種別では、「影響を受けている」と回答した企業の割合は、卸売・小売業が92.6%と最も高く、最も低い製造業でも86.7%となっており、すべての業種で高い割合。



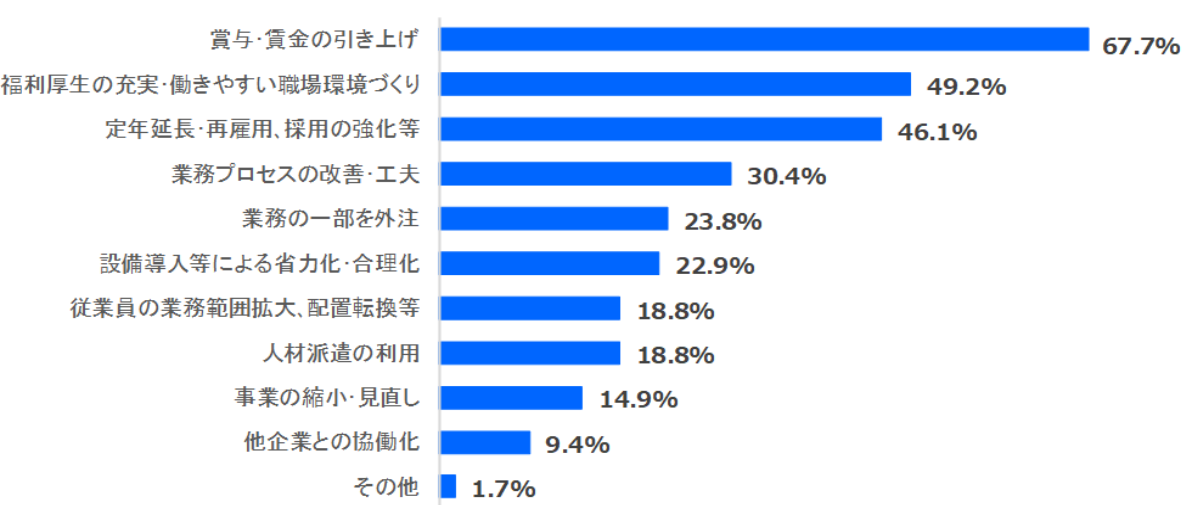
（４）人手不足の影響に関する具体的な内容（複数回答）

人手不足の影響としては、「生産性やサービス等の低下」が47.7%と最も多く、次いで「売上減少（機会損失等）」（45.5%）、「従業員間の技術・ノウハウ伝承不足」（43.4%）が続く。



（５）人手不足の影響緩和対策（複数回答）

人手不足の対策としては、「賞与・賃金の引き上げ」が67.7%と最も多く、次いで「福利厚生 の充実・働きやすい職場環境づくり」（49.2%）、「定年延長・再雇用、採用の強化等」（46.1%）が続く。



調査方法

- 1 調査内容
- 道内の企業経営者に対し、自社の経営状況や景気の見通し、経営を取り巻く環境変化などについて四半期毎に調査を実施
- 2 調査時点
- 令和5年12月31日
- 3 調査方法
- 「郵送」又は「インターネット」によるアンケート調査
- 4 調査対象及び回答企業数

区 分		調査対象 企業数(A)	回 答 企業数(B)	回答率
				(B／A・%)
総 計		900	547	60.8%
	札幌市を除く	701	428	61.1%
	札幌市	199	119	59.8%
業 種	建設業	125	99	79.2%
	製造業	150	102	68.0%
	卸売・小売業	188	104	55.3%
	運輸業	131	82	62.6%
	サービス業	306	160	52.3%
資 本 金	5千万円未満	618	371	60.0%
	5千万円以上～1億円未満	156	99	63.5%
	1億円以上	126	77	61.1%
地 域	道南	109	65	59.6%
	道央	382	222	58.1%
	札幌市を除く	183	103	56.3%
	札幌市	199	119	59.8%
	道北	132	96	72.7%
	オホーツク	89	49	55.1%
	十勝	94	60	63.8%
	釧路・根室	94	55	58.5%

(注) [道南]・・・渡島総合振興局、檜山振興局
[道央]・・・空知総合振興局、石狩振興局、後志総合振興局、胆振総合振興局、日高振興局
[道北]・・・上川総合振興局、留萌振興局、宗谷総合振興局
[オホーツク]・・・オホーツク総合振興局
[十勝]・・・十勝総合振興局
[釧路・根室]・・・釧路総合振興局、根室振興局

その先の、道へ。北海道

5 BSI(Business Survey Index)指標について

この調査では、企業経営者の業況感等について、当該四半期の状況を前年同期と比較して(景況感は前期)、「上昇」「横ばい」「下降」の選択肢により調査し、各BSI指標を次により算出。

$$\text{BSI} = (\text{「上昇」とする企業の割合}(\%)) - (\text{「下降」とする企業の割合}(\%)) \\ (-100 \leq \text{BSI} \leq 100)$$

【計算例(企業数:200社)】

業況感について、「上昇」とした企業20社、「横ばい」とした企業120社、「下降」とした企業60社の場合

$$\frac{20 \text{ 社}}{200 \text{ 社}} \times 100 - \frac{60 \text{ 社}}{200 \text{ 社}} \times 100 = 10\% - 30\% = -20$$

よって、この場合の業況感BSIはマイナス20 ※小数点以下の端数がある場合は四捨五入

企業経営者意識調査(第140回)

令和6年1月発行

編集・発行北海道経済部経済企画局経済企画課

T E L 011-204-5139

「企業経営者意識調査」の結果は、経済企画課のウェブサイトでもご覧いただけます。

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/bsi.html>